

彙報

二〇二三年四月より
二〇二四年三月まで

研究状況（二〇二三年度）

研究班

課題公募班

佛教天文学説の起源と變容 班長 小林博行

二〇二三年度から新型コロナウイルスがおおむね収束したことで、研究會を對面＋zoomのハイブリッドで實施できるようになり、最終的には計二五回の研究會を重ねた。『佛國曆象編』譯稿検討については、卷三から最終第五卷の途中までの検討を終え、あわせて卷一・二の編集作業をすすめた。また六月には臺灣中央研究院・李建民氏から東アジアの學術の近代的展開にまつわる報告を得、八月にはドイツで開催されたICHSEA 二〇二三に提出したパネル企畫「Astral Sciences in Context of Cultural Encounters」が採擇され、實施した。二月には、本研究班の活動を總括する人文研アカデミーセミナー「佛教天文学と文化交流」を實施し、多數の参加者を得た。また、今後の譯稿検討・編集に必要な『佛國曆象編』版本などの文獻を研究班豫算で購入した。なお、かつて科學史研究班が運営に關わり、本研究班の班員らが編集・執筆に加わった據點共同研究の成果論文集『東ア

ジア傳統醫療文化の多角的考察』が、二〇二三年度の研究成果刊行助成を得て刊行されたことを付記しておく。

二〇二三年 四月一〇日 『佛國曆象編』會讀

卷三・二六 a〇八一・二九 a〇二

發表者 宮島一彦

二〇二四年 四月二四日 『佛國曆象編』會讀

卷三・二九 a〇四一・三〇 b〇六

發表者 平岡隆二

卷三・三〇 b〇七一・三二 b〇五

發表者 小林博行（中部大學）

二〇二四年 五月〇八日 『佛國曆象編』會讀

卷三・三二 b〇六一・三四 a〇三

發表者 宮島一彦

卷三・三四 a〇四一・三六 b〇三

發表者 矢野道雄

二〇二四年 五月二二日 『佛國曆象編』會讀

卷三・三四 a〇四一・三六 b〇三

發表者 矢野道雄

（京都産業大學）

（京都産業大學）

卷三・三六 b〇四一・四二 a〇二

發表者 平岡隆二

二〇二四年 六月 三日 研究報告會 私の二

重證據法 發表者 李 建民

（臺灣中央研究院

歴史語言研究所）

白鳥庫吉の學説をめぐる日本學

術界の反應と王國維「二重證據

法」の形成

發表者 西山尙志（埼玉大學）

二〇二四年 六月一二日 『佛國曆象編』會讀

卷二・三六 b〇四一・四二 a〇二

發表者 平岡隆二

卷二・四二 a〇三一・四四 b〇六

發表者 小林博行（中部大學）

二〇二四年 六月二六日 『佛國曆象編』會讀

卷二・四二 a〇三一・四四 b〇六

發表者 小林博行（中部大學）

卷二・四四 b〇七一・四七 a〇三

發表者 矢野道雄

（京都産業大學）

二〇二四年 七月一〇日 『佛國曆象編』會讀

卷二・四七 a〇四一・四八 a〇三

發表者 宮島一彦

卷二・四八 a〇四一・四九 a〇一

發表者 矢野道雄

（京都産業大學）

二〇二四年 七月二四日 『佛國曆象編』會讀

卷四・〇一 a〇一一・〇四 a〇二

發表者 小林博行（中部大學）

卷四・〇四 a〇三一・〇七 b〇三

發表者 宮島一彦

二〇二四年

八月二二日 Panel “Astral Sciences in Context of Cultural Encounters.” ICHSEA 2023, Frankfurt Jesuit Cosmology in Japanese Translation: A Newly Discovered Manuscript of Sufera no nukigaki (Selection on the sphere) and its significance

發表者 Ryuji HIRAOKA

Islamicate Reading of the Chinese Calendar: Qutb al-Din al-Shirazi (1236–1311)’s Note on a Topkapı Fragment (Ahmet III 345)

發表者 Yoichi ISAHAYA

(北海道大學)

Traditional Time with Changing Rulers: Lunisolar Calendar in Modern Okinawa

發表者 Takuya MIYAGAWA

(廣島修道大學)

When George Sarton Met Oriental Science: Shinjo Shinzo’s Article on Scientific Japan and Its Transnational Reflections

發表者 Xudong GAO

(東京工業大學／清華大學)

コメンテーター

Lim JONGTAE
(ソウル大學)

コメンテーター

Christopher CULLEN
(ニードム研究所)

二〇二四年 九月 司會 塚原東吾(神戸大學)
四月 『佛國曆象編』會讀
卷四・〇七b〇四―一二b一〇

發表者 宮島一彦

二〇二四年 九月二五日 『佛國曆象編』會讀
卷四・一二a〇一―一二b〇五

發表者 矢野道雄

(京都産業大學)

二〇二四年 十月一六日 『佛國曆象編』會讀
卷四・二九b〇六―三二b一〇

發表者 小林博行(中部大學)

卷四・三二a〇一―三三a〇七

發表者 宮島一彦

二〇二四年 十月二三日 『佛國曆象編』會讀
卷四・三三a〇八―三五b〇四

發表者 梅林誠爾

(熊本縣立大學)

二〇二四年 十一月二三日 『佛國曆象編』會讀
卷四・三五b〇五―三六b〇七

發表者 小林博行(中部大學)

卷四・三六b〇八―三七b〇三

發表者 宮島一彦

二〇二四年 十一月二七日 『佛國曆象編』會讀

卷四・三七b〇四―四一a〇七

發表者 宮島一彦

卷四・四一a〇八―四三b〇八

發表者 清水浩子(大正大學)

二〇二四年 二月 三日 人文研アカデミーセミナー「佛教天文学と文化交流」佛教天文学説の起源と變容」研究班について

發表者 小林博行(中部大學)

六世紀の西域佛教石窟寺院の壁畫に見られる須彌山圖像について

發表者 檜山智美

(國際佛教大學學院大學)

圓通の曆學とその影響——應天曆を中心として——

發表者 高橋あやの

(大東文化大學東洋研究所)

良識としての曆道——小嶋濤山『佛國曆象辯妄』と陰陽道の視

點

發表者 梅田千尋

(京都女子大學)

平面天體儀「兩曜運旋略儀」と環中「須彌山儀」

發表者 梅林誠爾

(熊本縣立大學)

二〇二四年 二月一日 『佛國曆象編』會讀
卷四・三七b〇四―四一a〇七

發表者 宮島一彦

- 卷四・四一 a〇八一四三 b〇八
發表者 清水浩子 (大正大學)
- 卷四・四三 b〇九一四七 b〇一
發表者 梅林誠爾
(熊本縣立大學)
- 二〇二四年 二月二五日 『佛國曆象編』會讀
卷四・四七 b〇二一五一 a〇八
發表者 矢野道雄
(京都産業大學)
- 二〇二四年 一月一五日 『佛國曆象編』會讀
卷四・五二 b〇五一五四 b〇四
發表者 Bill MAK
(ニードム研究所)
- 卷四・五四 b〇五一五六 b〇八
發表者 宮島一彦
- 二〇二四年 一月二九日 『佛國曆象編』會讀
卷四・五一 a〇九一五二 b〇四
發表者 清水浩子 (大正大學)
- 卷四・五四 b〇五一五七 b〇一
發表者 宮島一彦
- 二〇二四年 二月一二日 『佛國曆象編』會讀
卷五・〇一 a〇一〇二 a〇
三 發表者 宮島一彦
- 卷五・〇二 a〇五〇三 a〇四
發表者 高橋あやの
(大東文化大學東洋研究所)
- 二〇二四年 二月一九日 『佛國曆象編』會讀
卷五・〇三 a〇五〇四 b〇六
發表者 小林博行 (中部大學)
- 卷五・〇四 b〇七〇六 a〇四
發表者 宮島一彦
- 二〇二四年 三月一一日 『佛國曆象編』會讀
卷五・〇六 a〇五〇八 a〇四
發表者 梅林誠爾
(熊本縣立大學)
- 卷〇八 a〇五〇九 b〇九
發表者 小林博行 (中部大學)
- 二〇二四年 三月二五日 『佛國曆象編』會讀
卷五・〇九 b〇一〇一三 a〇三
發表者 Bill MAK
(ニードム研究所)
- 卷五・一三 a〇四一四 b〇一
發表者 宮島一彦
- 東アジア災害人文學の構築** 班長 山 泰幸
最終年度にあたる二〇二三年度は、對面を基本とし、オンラインを併用した研究會を合計五回實施した。第一回は京都大學總合博物館特別展「京都白川の巨大土石流——埋もれた先史土砂災害に學ぶ」を企畫した富井眞班員の展示解説をふまえた檢討會をおこない、第二回は京都大學防災研究所において「風土」をテーマとして上原麻有子班員と山口敬太班員がそれぞれ哲學とまちづくりの異なる視點から研究報告をおこなった。第三回はIDRRI 國際總合防災學會でのセッション、第四回は人文研アカデミーのシンポジウム「氣候變動・災害多發時代に向き合う人文學——東アジア災害人文學の挑戦」により、それぞれ國內外の研究者と一般社會に向けて研究成果を發信した。第五回は外部からゲストとして加藤泰史氏とYounn Moreau 氏を招へいし、哲學・思想の方面からそれぞれ災害について考え、報告と討論をおこなった。
- 二〇二三年 五月一三日 災害と考古學 京都
白川の巨大土石流…埋もれた先
史土砂災害に學ぶ
發表者 富井 眞 (大正大學)
- 二〇二三年 八月二七日 災害と風土 風土と
まちづくり…共同體の再編と地
域文化の繼承・創生
發表者 山口敬太
(地球環境學堂)
- 和辻哲郎の「風土」論再考…風
土としての看護的自然の日本藝
術 發表者 上原麻有子
(文學研究科)
- 二〇二三年 九月二八日 Implementation gaps
are persistent phenomena in
disaster risk management
發表者 岡田憲夫
(關西學院大學)
- 發表者 多々納裕一
(防災研究所)
- 發表者 大西正光
(工學研究科)
- 二〇二四年 二月一七日 氣候變動・災害多發

時代に向き合う人文學・東アジア災害人文學の挑戦語り交わし編み合う學融の場へ向けて…頻發災難歴を飛翔する

發表者 岡田憲夫

氣候變動と天道策…災難をさける「理致」

發表者 趙寛子（ソウル大學）

氣候變動と風土變動

發表者 張政遠（東京大學）

現場で活きる人文學の可能性…櫻島防災を事例として

發表者 大西正光

（工學研究所）

中國災害考古學事始

發表者 向井佑介

司會 山 泰幸

（關西學院大學）

コメンテーター 多々納裕一

（防災研究所）

コメンテーター 上原麻有子

（文學研究所）

2014年 2月13日 災害と思想 Living

with disasters

發表者 Yoann Moreau

（EHESS-CNRS）

自然災害がもたらす思想的轉換…大地が揺れると思想も變わ

る 發表者 加藤泰史

（梶山女學園大學）

ポスト・パンデミック世界の新しい社會・環境理論に向けて

2013年度は、岩波書店から出版豫定である

『疫病と人文學——終わらせる力に抗い、傷を書きとめる』（假）に向けて、ほぼすべての執筆豫定者の原稿案を検討した。同時代的な研究の場合

は、歴史的背景から論じような調整をしたり、歴史研究は同時代的觀點を導入するなど、全體のバランスを検討することができた。

2013年 4月24日 論集に關わる話題提供

供

發表者 香西豐子（佛教大學）

2013年 5月22日 汚穢、傳染、汚染

——今日のアプローチの模索、および生活現場における若干の事例考察

發表者 酒井朋子

2014年 6月 5日 原稿検討會

發表者 香西豐子（佛教大學）

（ハイデルベルク大學）

發表者 藤本大士

2013年10月23日 コロナ禍が見せた世界の成り立ちを忘れない——ケ

アを擔う女として

發表者 直野章子

2013年11月20日 石鹼と手洗いの社會

史 發表者 岩島 史

（經濟學研究所）

2013年12月28日 近世後期天草の癩瘡體驗——流行病が村や個人にもたらしたもの

發表者 東 昇

「副反應」と「後遺症」／「死者」と向きあう

發表者 香西豐子（佛教大學）

2014年 1月22日 現代日本人の政治・科學への「信賴」に關する歴史學からの試論——Covid-19の「五類化」に伴う社交的言説の分析から

發表者 池田さなえ

（京都府立大學）

後遺症について

發表者 香西豐子（佛教大學）

2014年 2月 5日 日本資本主義のなかの「流行性感冒」

發表者 小堀 聰

監視と計算——COVID-19における科學技術

發表者 瀬戸口明久

2014年 3月 4日 誰が彼らを殺すのか…怒りと認識の十九世紀統計

史 發表者 岡澤康浩

2014年 3月13日 ウイルスの變容、ヒトの變容——いちごっこと相關

史 發表者 岡澤康浩

2014年 3月13日 ウイルスの變容、ヒトの變容——いちごっこと相關

史 發表者 岡澤康浩

2014年 3月13日 ウイルスの變容、ヒトの變容——いちごっこと相關

史 發表者 岡澤康浩

2014年 3月13日 ウイルスの變容、ヒトの變容——いちごっこと相關

史 發表者 岡澤康浩

発表者 桑田昌宏

(生命科学研究所)

パンデミックと家族と鳥類…分

断の世紀にアーティストでいる

こと 発表者 新井 卓

(アーティスト)

東方ユーラシア馬文化の研究

最終年度にあたる二〇二三年度は、対面とオンラインとの併用により、人文科学研究所分館を会場として、計六回の研究会を実施した。まず、昨年度末に刊行した書籍『馬・車馬・騎馬の考古学——東方ユーラシアの馬文化』の合評会を実施した。また、定例の研究会では、主に日本考古学の視點から「日本古代牧の立地と構造」「欧米における騎馬民族征服王朝説の展開」「古代の蝦夷がウマを飼ったという記録は何を示すか」の諸問題を議論した。さらに、文献史学の視點から「新羅人と馬」について、言語学の視點から「馬に關わる言葉と文字」についての研究報告がなされ、それぞれ活発な討論がおこなわれた。年度末の三月には、本研究班の成果を中國の研究者に向けて発信する目的で、蘭州大學において對面の國際シンポジウム「馬・車馬・騎馬の考古学・歐亞大陸東部的馬文化」を開催し、中國・韓國・日本の研究者による計一三本の研究発表をふまえて、討論と意見交換をおこなった。

二〇二三年 四月 七日 『馬・車馬・騎馬の考古学——東方ユーラシアの馬

文化』合評會書評『馬・車馬・騎馬の考古学——東方ユーラシアの馬文化』

発表者 森下章司

(大手前大學)

四月二一日 馬の生産と管理 日本古代牧の立地と構造・馬生産・飼育・管理・移送・調教の空間

発表者 山中 章

(三重大學名譽教授)

五月一九日 騎馬民族征服王朝説の展望 欧米における騎馬民族征服王朝説の展開

発表者 ライアン・ジョセフ

(岡山大學)

六月 二日 古代朝鮮半島の馬文化 新羅人と馬…文献史料を中心に

発表者 田中俊明

(滋賀縣立大學名譽教授)

六月一六日 古代蝦夷の馬文化 古代の蝦夷がウマを飼ったという記録は何を示すか

発表者 松本建速 (東海大學)

七月二一日 馬に關わる言語と文物 馬に關わる言葉と文字

発表者 野原將揮

チベット・ビルマ語の馬

コメンテーター 池田 巧

朝鮮半島南西部地域と日本列島

二〇二四年 三月一六—一七日 『馬・車馬・騎馬の考古学・歐亞大陸東部的馬文化』國際學術研討會 草原地帶馬の利用…戰車和騎乘的地域交流

発表者 中村大介 (埼玉大學)

馬鐙の出現與騎馬文化的東傳

発表者 諫早直人

戰國至北朝騎乘鞍具的發展演變

発表者 李 雲河 (北京大學)

中國古代重裝騎兵的發展

発表者 岡村秀典

(黒川古文化研究所)

從車輛製造技術視角重審商周馬車的出現及變革

発表者 張 萬輝 (清華大學)

從帶飾板看匈奴的當地及其影響

発表者 韓 眞聖

(慶熙大學校)

甘肅馬家塬出土戰國西戎車輛的發現與復原

発表者 謝 焱

(甘肅省文物考古研究所)

中國古代馬匹役使的新認識…以甘肅石家墓地五號車馬坑爲例

發表者 李 悅(西北大學)

中國騎馬發展的三階段…三世紀五世紀、七世紀的變革

發表者 向井佑介

中國古代牧場的風景

發表者 菊地大樹(蘭州大學)

火山噴發埋没的養馬相關遺址群的發掘調査…位于日本國群馬縣榛名山麓的遺址

發表者 右島和夫

(群馬縣立歴史博物館)

人物で見る第二次世界大戦

班長 林田敏子

令和五年度は、臺風で中止となった一回を除いて六回の例会を開催した。そのうち二回はゲストを報告者に招き、四月例会では近年のアジア・太平洋戦争の研究動向について、十一月例会では戦後日本・地域占領研究について、専門家の知見を提供してもらった。班員による報告は、七月例会が「戦後日本の中国研究者による日中戦争研究と中国の日中戦争認識」、一〇月例会が「戦争の記憶と社会——獨ソ戦期における従軍記者の活動」、一月例会が「証言はフランス文学に何をもたらしたか」、三月例会が「第二次世界大戦は(非)亡命作曲家にどのような影響を与えたか」をテーマとした。本研究班の設立趣旨に沿った研

究発表が増えたことに伴って、例会における討論は明らかに充實の度を増してきている。

二〇二三年 四月一五日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

最近のアジア・太平洋戦争史関連の研究動向

發表者 古川隆久(日本大学)

二〇二三年 七月二二日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

戦後日本の中国研究者による日中戦争研究と中国の日中戦争認識

發表者 小野寺史郎

二〇二三年 一〇月 七日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

戦争の記憶と社会——獨ソ戦期のソ連における従軍記者の活動

發表者 立石洋子

二〇二三年 一月二五日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

戦後日本・地域占領研究を読み直す

發表者 長志珠繪(神戸大学)

二〇二四年 一月二〇日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

証言はフランス文学に何をもたらしたか

發表者 久保昭博

(関西学院大学)

二〇二四年 三月 二日 人物で見る第二次世界大戦

界大戦

第二次世界大戦は(非)亡命作曲家にどのような影響を与えたか

發表者 浅井佑太

(お茶の水女子大学)

インドにおける「循環的存在論」の形成——祭祀思想から哲學への發展を中心に

令和五年度は一二回の定例研究会を行い、研究計畫どおり各回を、古代インド文獻『ヴァードウーラ・シユラウターストラ』新月満月祭章講讀の部、および班員等による個人報告の部の二部構成で實施した。講讀の部では、同章全體の三、四程度まで讀み終え、最終成果の一つとして見込む校訂テキストと和譯の公表に向けた準備を進めた。個人報告の部では、本研究班の課題に關連する多様な研究を共有し、最終成果として豫定している研究論集の下地作りを進めた。なお、九月の定例研究会ではユダヤ思想の専門家(市川裕・東大名譽教授)を招聘講師として、領域横斷的な討議を深めた。全回を對面・オンライン併用型で開催し、参加者は平均して二五名ほどである。さらに研究会の録畫映像をYouTubeで限定公開しており、各回の平均視聴数は一五回ほどであった。こうした録畫の視聴は、開催日時に都合のつかない研究者にとって研究会に參畫しつづける有用な機会となっており、諸方面から好評を得ている。

二〇二三年 四月二四日 インドにおける「循

環的存在論」の形成 第一〇回

研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.2.33-2.4.3.21 (新月満月祭本
祭日・献供用匙類の準備)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
南インド・トラヴァンコール王
室の灌頂儀禮・儀軌原典と試譯
解釋上の問題點

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)

二〇一三年

五月 八日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第一一回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.2.33-2.4.3.21 ー 関連プラー
フマナ文獻

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
カリ期における法の子ども觀

発表者 谷口力光
(東京大學大学院博士課程、
日本學術振興會)

二〇一三年

六月 五日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第二一回
研究會 南インド・ケララ州
における Pūnyāha 儀禮とその
起源

発表者 梶原三恵子
(龍谷大學)

手嶋英貴 (東京大學)
グリヒヤストラとグリヒヤ補
遺文獻における Pūnyāha 概觀

発表者 梶原三恵子

(東京大學大学院)

ケララ州のジャイミニーヤ派
(サーマヴェーダ) に伝えられ
る Pūnyāha 儀禮の概觀

二〇一三年

七月 三日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第三一回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.3.22-37 (新月満月祭本祭
日・祭主の妻に關する儀禮)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
ジャータカの盜賊譚

発表者 中村 史
(小樽商科大學)

二〇一三年

八月二八日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第四一回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.3.22-37 関連プラーフマナ
文獻

二〇一三年

九月 四日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第五一回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.3.38-49 (新月満月祭本祭日
準備儀禮)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
ユダヤ教の聖俗分節思想から存
在の分節化としての法思想へ

発表者 市川 裕 (東京大學)

二〇一三年一〇月三〇日 インドにおける「循

環的存在論」の形成 第一六回
研究會 メーカーティティによ
る『マヌ法典』第一章の解釋

発表者 吉水清孝
(公益財団法人東洋文庫)

二〇一三年

一月二七日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第一七回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.3.50-2.4.4.2 (新月満月祭本
祭日・準備儀禮)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
頭や眼を覆うことと祕義學習

二〇一三年

二月二五日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第一八回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra
2.4.3.50-2.4.4.1 ー 関連プラーフ
マナ文獻

二〇一四年

一月二九日 インドにおける「循
環的存在論」の形成 第一九回
研究會 Vādhūla-Srauta-Sūtra

発表者 手嶋英貴 (龍谷大學)
河口慧海關係資料の系統と分
類・國內研究機關が保有するチ
ベット關係資料の積極的活用
に向けて

発表者 菊谷龍太
(高野山大學)

2442-23 (新月満月祭本祭日
準備儀禮・パriday、祭匙類の
置き定めほか)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大学)
Buddhacarita における yad 節

発表者 張 倩倩
(福州外語外貿学院)

二〇二四年

二月一六日 インドにおける「循環的存在論」の形成 第二〇回

研究會 Vadhūa-Srāuta-Sūtra
2442-23 関連ブラーフマナ文
献

発表者 手嶋英貴 (龍谷大学)
ヴェーダの規範に従う「善人」
の輪廻について：マドゥスーダ
ナの著作 Gūḍharthadīpikā に見
られる事例から

発表者 眞鍋智裕
(北海道大学大学院)

二〇二四年

三月二六日 インドにおける「循環的存在論」の形成 第二一回

研究會 Vadhūa-Srāuta-Sūtra
2442-34 (新月満月祭本祭
日・準備儀禮)

発表者 手嶋英貴 (龍谷大学)
聖仙たちの言語

発表者 川村悠人
(広島大学大学院)

二〇二四年

三月二六日 公開シンポジウム

「マハーバーラタ」研究の最前
線・傳承の形成と物語の展開」
(ブラフマニズムとヒンドウイ
ズム第一〇回シンポジウム)
『マハーバーラタ』の口頭傳承
的特徴について

発表者 高橋健二
(東京大学大学院)

『マハーバーラタ』に描かれた
王權儀禮の特徴

発表者 手嶋英貴 (龍谷大学)
古代インド敘事詩の神器戦にお
ける記憶と呪句の役割

発表者 川村悠人
(広島大学大学院)

ヴィシシュヴァルーパー物語の傳承
と變容 発表者 堂山英次郎
(大阪大学大学院)

指定コメント
コメンテーター 水野善文
(東京外国語大学大学院)

「語りえぬもの」を語る行為とその思想表現に關
する學際的研究——禪の言葉と翻譯を中心課題と
して—— 班長 何 燕生

二〇二三年度は基本的に年度當初の計畫に沿つ
て研究活動を実施した。研究會計四回、對面とオ
ンラインを併合する形で、研究所本館大會議室を
會場に實施した。

二〇二二年度と同様、午前は「辯道話」の會讀、
擔當者は班長の何燕生、班員参加者は質疑應答と
いう形で行われた。午後の研究成果報告會は班員
による個別の研究成果が發表された。

研究會は司會とコメンテータを含め、基本的に
班員が中心に行われたが、専門分野を考慮し、研
究班顧問の方に依頼することもあった。海外の班
員にも司會やコメンテーターなどを擔當してもらっ
た。なるべく「全員参加」を目指して實施した。

毎回の研究會は録畫をし、都合により参加でき
ない班員や時差の関係で参加できない海外の班員
にURLを知らせ、情報の共有につとめた。

また、年度當初の實施計畫である日本宗教學會
學術大會でのパネル發表については、計畫通り實
施した。詳細は次のとおりである。日時：二〇二
三年九月一〇日、會場：東京外国語大学、パネル
のテーマ：「日本における禪受容の再檢討——中
世から近世へ——」(代表者：何燕生)。発表者
およびテーマ：「辯道話」から讀み取れるもの
——初期道元の課題——(班長：何燕生)、「圓
爾の禪密諸典籍の利用と鎌倉中期の禪の展開」
(班員：和田有希子)、「密參禪」の由来と展開の
再檢討——下語の使用を手がかりに——(班
員：ディティエ・ダヴァン)、「看話禪の展開——
大慧宗杲と白隱慧鶴を中心として——」(班員：
柳幹康)、コメンテーター(研究班顧問・末木文美
士)、司會(班長：何燕生)。

さらに、年末に實施した第九回の研究會では
「特別企畫——禪研究の現在と未來」と題し、博

士課程に在學している若手研究者に研究成果を報告してもらった。次世代育成にも配慮した。

二〇二三年 四月二九日 第六回研究会『辯道話』の會讀

發表者 何 燕生 (班長)

『正法眼藏』の編集ならびに

『辯道話』成立に關する諸問題について

發表者 角田泰隆 (駒澤大學)

コメンテーター 石井清純 (駒澤大學)

司會 古勝隆一

Self-as-Anything: 道元における自己・世界・他者

發表者 出口康夫 (京都大學)

コメンテーター Raji Steineck

チューリッヒ大學

司會 何 燕生 (班長)

二〇二三年 六月二四日 第七回研究会『辯道話』の會讀

發表者 何 燕生 (班長)

『宗鏡錄』の思想と展開―佛の

自覺と實踐

發表者 柳 幹康 (東京大學)

コメンテーター 和田有希子 (早稲田大學)

司會 赤松明彦 (京都大學)

『正法眼藏』における『法華經』の觀心釋と『華嚴經』利用

發表者 石井公成 (駒澤大學)

コメンテーター 早川 敦 (東北福祉大學)

司會 赤松明彦 (京都大學)

二〇二三年 二〇月二八日 第八回研究会『辯道話』の會讀

發表者 何 燕生 (班長)

『中國初期前思想の形成』の刊

行によせて―第五章「藥山系

禪師の自己認識とその背景」を

中心に―

發表者 齋藤智寛 (東北大學)

コメンテーター 程 正 (駒澤大學)

司會 末木文美士 (國際日本文化研究センター)

道元の「一心」について

發表者 早川 敦 (東北福祉大學)

コメンテーター 何 燕生 (班長)

司會 水野友晴 (關西大學)

二〇二三年 二〇月三三 第九回研究会『辯道話』の會讀

發表者 何 燕生 (班長)

法眼宗から雲門宗へ…宋代禪の

始まりと「活句」の思想

發表者 土屋太祐 (新潟大學)

コメンテーター 石井修道 (駒澤大學)

司會 古勝隆一

特別企畫「禪研究の現在と未

來」(一) 二〇二三年度の禪研究

を振り返って

發表者 何 燕生 (班長)

(二) 發心を中心とした道元思想

の研究 發表者 米野大雄 (早稲田大學大学院)

道元における自然觀

發表者 李 家明 (國際日本文化研究センター 大學院)

司會 何 燕生 (班長)

中日の近代哲學・思想の交差とその實踐

班長 廖 欽彬

準備會もあわせると、全六回の研究会を實施した。準備會では廖班長より研究班の趣旨説明と研究班員の自己紹介があった。第一回から第五回まで毎回二、四名の報告者と各司會を立てて研究班を實施し、近代日中哲學交差の總合テーマのもとで、班員及びゲストが自らの専門分野にひきつけて報告を行った。分野は哲學、政治、思想、藝術、宗教など多岐にわたるが、いずれも東アジア哲學を考察するうえで意義ある報告となった。報告は基本的に對面で實施し、参加者はオンライン・對面のハイブリッドで参加した。テーマに相應しく、

日本、中國、臺灣で活躍する哲學・思想の研究者に報告を擔當してもらい、その後の意見交換も活発なやりとりがあった。本年度は研究報告を主體に運営を實施し、班員相互のテーマ認識や理解を深めることができたため、次年度は成果發表に向けて動ければと考えている。

二〇二三年 八月 二日 第一回共同研究会

「國體に醇化された思想を受容する」という主張——大東文化協會から「國體の本義」への系譜
發表者 植村和秀
(京都産業大學)

司會 福家崇洋(京都大學)
東アジアにおける哲學の展開と相互交流
發表者 藤田正勝(京都大學)
司會 廖 欽彬(中山大學)
自己否定する主體、東アジア哲學の挑戦——田邊元、牟宗三、朴鍾鴻
發表者 カクミンソク
(京都大學)

司會 張 政遠(東京大學)
五四運動前後におけるマルクス思想の受容と傳播——李大釗、陳獨秀の活動を中心に
發表者 蘇 文博
(總合研究大學院大學司會)
廖 欽彬(中山大學)

二〇二三年 一〇月 九日 第二回共同研究会

二十世紀中國はなぜ平和的な改良の道を歩むことができなかったのか？——現代を背景にした「革命」と「改良」に對する歴史評價の問題もかねて
發表者 楊 奎松(北京大學)
司會 廖 欽彬(中山大學)

現代中國の政治的言説における「人民」について
發表者 王 小林(京都大學)
司會 福家崇洋(京都大學)

二〇二四年

一月一九日 第三回共同研究会
美育をもつて宗教に取って代わる——傳統的な士人の現代的轉向
發表者 渠 敬東(北京大學)
司會 廖 欽彬(中山大學)
清代碑學の藝術的實踐とその近現代書風への影響
發表者 朱 天曙
(北京語言大學)

司會 吳 孟晉(京都大學)
一月三〇日 第四回共同研究会
清末から「五四」まで——中國現代思想の急進化過程の反省
發表者 唐 文明(清華大學)
司會 福家崇洋(京都大學)

儒教復興と儒學解放の歴史的パラドックス——革命派の章太炎

とマルクス主義歴史家の翦伯贊を手掛かりに
發表者 劉 紀蕙
(陽明交通大學)

司會 石川禎浩(京都大學)
現象學の儒學的轉向と儒學現象學
發表者 朱 剛(中山大學)

司會 龜井大輔(立命館大學)

二〇二四年

二月一二日 第五回共同研究会
なぜ「美」や「哲學」は問題になるのであろうか？——王國維の場合
發表者 錢 鷗
(同志社大學)

司會 福家崇洋(京都大學)
主體・環境・社會——三木清の殘した思想の可能性
發表者 ロマリク・ジャネル
(京都大學)

司會 カクミンソク
(京都大學)

中國生活文化の思想史

令和五年度は計十回の研究会にて計二三題の研究發表もしくは講演を實施し、八回の讀書會にて虎溪山漢簡「食方」の譯注檢討、また茶に關する研究發表會にあわせて重要文化財の日本近代茶室遺構を含む京都大學清風莊の見學會を開催した。研究發表では飲食文化を軸とし、中でも讀書會で

扱う「食方」とも関連した中國古代における穀物の

の收穫・調製・調理の實相のほか、喫茶文化、また食と醫の関連、藥物として服食される植物をめぐる文化など、大學院生を含む多分野の研究者による成果が披露された。とくに従来知られるとおり食と醫(藥)は密接に連關し強く補完し合う研究領域であるが、令和五年度の研究活動により、食材と藥材、その調製・調理と調劑の工程に關する具體的な事例からそのことを再確認することができた。ほか、中國古代の贈答文化、占い、樂器・音樂など、多彩なテーマによる發表と討議により、各分野で個別に蓄積されてきた生活文化研究の成果が幅広い領域の研究者間で共有された。

二〇二三年 四月 八日 共同研究趣旨説明

發表者 名和敏光

(山梨縣立大學)

贈り物の中國古代史

發表者 柿沼陽平

(早稻田大學)

二〇二三年 四月 九日 第一回「食方」讀書

會史料の概説および今後の進め方について

發表者 名和敏光

(山梨縣立大學)

二〇二三年 五月 六日 月の桂

發表者 池内早紀子

(大阪府立大學)

天回醫簡からわかる漢代の醫學

發表者 猪飼祥夫(猪飼鍼灸)

發表者 島山奈緒子

(立命館大學)

二〇二三年 五月 七日 第二回「食方」讀書

會「食方」譯注報告一

發表者 森 和(杏林大學)

二〇二三年

六月 三日 李建民氏講演會(共同研究「佛教天文學說の起源と變容」班との合同研究會) 王國維與令人眷念之年……(中國語、通譯あり)

發表者 李 建民

(中央研究院歷史語言研究所)

白鳥庫吉の學說をめぐる日本學術界の反應と王國維「二重證據法」の形成

發表者 西山尙志

(埼玉大學)

座談會(中國語、通譯あり)

司會 高井たかね

(人文科學研究所)

二〇二三年 六月 四日 第三回「食方」讀書

會「食方」譯注報告二

發表者 森 和(杏林大學)

二〇二三年 七月 八日 收穫から調理まで

發表者 村上陽子

(防災専門圖書館)

二〇二三年 七月 九日 第四回「食方」讀書

會「食方」譯注報告三

發表者 名和敏光

(山梨縣立大學)

二〇二三年 八月 五日 宋代譜錄にみる植物

發表者 名和敏光

(山梨縣立大學)

二〇二三年 八月 五日 宋代譜錄にみる植物

の變異に對する格物思想について

發表者 久保輝幸

(横濱商科大學)

酒は百藥の長——醫食同源の諸相

發表者 眞柳 誠(茨城大學)

二〇二三年 八月 六日 第五回「食方」讀書

會「食方」譯注報告四

發表者 名和敏光

(山梨縣立大學)

二〇二三年 九月三〇日「冷え」…なぜ日本人が悩むのか?——「こころ」と「からだ」の繋がり

發表者 渡邊眞弓

(關西醫療大學)

肩こりの臨床

發表者 平地治美

(和光鍼灸治療院)

二〇二三年 十一月 五日 共同プロジェクト紹介「藥用作物栽培における課題・價値の再發見と地域社會での共有——生産現場の當事者の・總合的理解を基盤に——」

發表者 西村陽菜

(京都大學文學研究科)

龔廷賢『壽世保元』「藥性歌括」に關する考察

發表者 西村陽菜

(京都大學文學研究科)

龔廷賢『壽世保元』「藥性歌括」に關する考察

發表者 西村陽菜

(京都大學文學研究科)

龔廷賢『壽世保元』「藥性歌括」に關する考察

發表者 西村陽菜

(京都大學文學研究科)

龔廷賢『壽世保元』「藥性歌括」に關する考察

發表者 西村陽菜

(京都大學文學研究科)

猫と本草

發表者 小山 瞳 (關西大學)

二〇二三年 二月 二日 共同シンポジウム

「東アジア知識人の生活文化における琴學」中國先秦時代における「樂」の實態——出土樂器の検討を中心に——

發表者 長澤文彩

(東京藝術大學大學院)

諸葛孔明彈琴考——虚實のはざまの音楽

發表者 早川太基 (神戸大學)

彈琴私見と琴演奏 (西麓堂琴統) 發表者 伏見无家 (靖)

(東洋琴學研究所)

音楽的コスモロジーの調和數理とA I打譜における琴音の合成について 發表者 大塚一輝

(公財) 未來工學研究所

總合討論 司會 高井たかね

(人文科學研究所)

二〇二三年 二月 三日 第六回「食方」讀書會「食方」譯注報告五

發表者 伊藤裕水 (山口大學)

二〇二四年 二月 二日 清風莊見學會

解説「清風莊について」

發表者 奥田昭彦

(京都大學清風莊)

二〇二四年 二月 三日 宋代點茶の芽茶の毛

(毛茸) による白色の泡の茶とその日本における展開

發表者 豊田裕章

(國際日本文化研究センター)

陸羽『茶經』に見える思想について 發表者 岩間眞知子

静岡縣ふじのくに茶の都ミュージアム

二〇二四年 二月 四日 第七回「食方」讀書會「食方」譯注報告六

發表者 伊藤裕水 (山口大學)

二〇二四年 三月 九日 中國兵學における鬼神の思想的地位

發表者 柊島雅弘

(和歌山工業高等專門學校)

大宰府と占い

發表者 奈良場勝

(國學院大學)

二〇二四年 三月 一〇日 第八回「食方」讀書會「食方」譯注報告七

發表者 小倉 聖

(大東文化大學)

歴史的メディア認識論…テレビ史におけるメディア論とテクノサイエンスの交錯

班長 ショーン・ハンスン

ショーン班は活動の中心として、日本とイギリスを結んでオンライン讀書會を合計七回行い、メディア論・テレビ論の重要文献を購讀した。また、

これに加えて、對面でのイベントとして、六月には日英バイリンガルでのワークショップ「Techniques of the Shichōsha: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects」(「視聽者」の系譜…ある文化的主體の科學技術的形成)を、二月には「テレビジョン・アーカイブスを再想像する…科學技術とメディア論から考える未來」の二つの公開イベントを行った。また、二月にはクローズドでの研究報告會を開催した。

二〇二三年 四月 二七日 讀書會 飯田豊 (二〇一六)『テレビが見世物だったころ…初期テレビジョンの考古學』青弓社

發表者 新藤雄介 (福島大學)

二〇二三年 五月 三〇日 讀書會 Doron Galil, 2020. Seeing by Electricity: The Emergence of Television, 1878–1939. Duke University Press

(Sign, Storage, Transmission)

發表者 河村 賢 (大阪大學)

二〇二三年 七月 六日 讀書會 吉見俊哉

『聲』の資本主義 (河出文庫)

發表者 岡澤康浩

(人文科學研究所)

二〇二三年 九月 五日 讀書會 Henning Schmidgen 『Horn, or The Counterside of Media』 (University of Duke Press, 2022)

發表者 HSIUNG, Hansun

- (Durham University)
二〇一三年一〇月二四日 讀書會 Lorenz Engel. The Switch Image: Television Philosophy.
(Bloomsbury Publishing, 2022)
發表者 岡澤康浩
(人文科學研究所)
二〇一三年二月 四日 テレビジョン・アーカイブスを再想像する
司會 岡澤康浩
(人文科學研究所)
〈テレビジョン〉的なものの複數性に開かれたアーカイブズへ
發表者 HSIUNG, Hansun
(Durham University)
NHKアーカイブスの保存と活用
發表者 前川秀樹
(NHKアーカイブス)
發表者 山岸清之進
(NHKアーカイブス)
放送関連の歴史資料の現状／NHK文研所蔵の文書資料を中心に
發表者 村上聖一
(NHK放送文化研究所)
國立科學博物館のビジュアル系資料の保存と活用
發表者 前島正裕
(國立科學博物館)
技術史研究におけるモノ・知

- 識・アーカイブ
コメンテーター 河西棟馬
(東京工業大學)
アーカイブとメディア研究を往還する
コメンテーター 近藤和都
(大妻女子大學)
二〇一三年二月一八日 讀書會 丸山友美『日本の初期テレビドキュメンタリー史』(青弓社、二〇一三)
發表者 岡澤康浩
(人文科學研究所)
二〇一四年 一月二九日 讀書會 Susan Murray, 2018, Bright Signals: A History of Color Television.
Duke University Press
發表者 河村 賢 (大阪大學)
二〇一四年 二月二二日 研究報告會 All the Sciences Under One Roof
Shimomura Toratarō's War on "Japanese Science"
發表者 岡澤康浩
(人文科學研究所)
Reassembling the Written
發表者 HSIUNG, Hansun
(Durham University)
コメンテーター 中尾麻伊香
(廣島大學)
日韓ビデオアート

- 發表者 KWON, Eugene
(Yale University / 早稲田大學)
Media, (Sound) Technology, and Body
發表者 CHOI, Eun Jeong
(New York University / 東京大學)
テロリズムとテレビ
發表者 河村 賢 (大阪大學)
東方學研究部
チベットにおけるコミュニケーションツールの研究——書簡文化の歴史的變遷と現代的意義——
班長 池田 巧
チベット語の書簡について、班員の間で基本的な知識と認識を共有するべくさまざまな書簡文書の紹介を含む報告を聞き、分野横斷的な討論と検討を行なった。書簡に加えて多様な文書の書式についての研究報告もあり、それぞれのテーマごとに検討を加え、書かれた文書の地域的、時代的な諸特徴についての理解を深めた。チベット語の書簡の書式と内容についての資料のひとつに、青木文教が請求したチベット語の書簡の書き方についてのマニュアルの寫本がある。この資料は、これまでに公式に出版されたことがなく、その内容についてもほとんど知られていない。この寫本を撮影した寫真版に基づき、會讀を行うための校本を作成するべくチベット文字の入力を依頼し、デジタルテキストの作成を繼續した。また定例の研究

集會を對面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、班員各位の先端的な研究成果の報告のほか、ゲストスピーカーから最新の研究報告を聞く機会を得た。

二〇二三年 四月一五日 チベット語の書簡あれこれ 發表者 三宅伸一郎 (大谷大學)

二〇二三年 五月二七日 Workshop on History and Culture in Tibet and Ladakh Continuity and changes in Ladakh from the Kushan & post-Kushan to the Tibetan periods: an archaeological exploration.

發表者 Quentin Deyers (CNRS, Paris)
Early Tibetan art and inscriptions in Ladakh.

發表者 Nils Martin (CIRCAO, Paris)

二〇二三年 六月一七日 チベット語文書におけるチェター (che trags, che mgo) のこと

發表者 池尻陽子 (關西大學)

二〇二三年 七月二二日 山口瑞鳳先生を偲ぶ會 in 關西チベットからの

最初の留學生 ツァワ・ティ
トウルが西本願寺に宛てた私信

發表者 井内眞帆

(京都大學白眉センター)

發表者 多杰才旦 (青海民族大學)

二〇二三年一月一八日 パクパとレルティの往復書簡 發表者 小野田俊藏 (佛教大學)

二〇二三年二月二三日 チベット文學に見る書簡文化の諸相と書簡體小説

發表者 星 泉 (東京外國語大學)

二〇二四年 三月 九日 『蒙古堂稿』にみる清朝・チベット間交渉の書簡と口述

發表者 岩田啓介 (筑波大學)

佛教文學作品としての書簡——インドとチベットの事例——

發表者 加納和雄 (駒澤大學)

二〇世紀中國史の資料的復元 班長 石川禎浩

四月から三月にかけて、合計一六回の班例會を開催した。主なものは次の通り (報告者・題目)

四月一四日 楊奎松 毛澤東「論新段階」及其統戰策略的解讀問題

四月二二日 石川禎浩 中共建黨關係資料百年史

五月一二日 楊韜 近代上海における外國映畫上映騷動の考察…ソ連映畫『アビシニア』を例に

五月二六日 森川裕貴 清末における梁啓超の

外債論

六月 九日 周俊 農業集團化の百科事典…『中國農村的社會主義高潮』の編纂、發行及び評價

六月二三日 高嶋航『大連市志・體育志』の編纂…滿洲のススポーツ史をいかに記述するか

七月 七日 李義成 己亥建儲事件における鄭觀應の政治活動：楊陸 清末滿洲人の民族論…『大同報』を中心に

九月二九日 貴志俊彦 一九四〇年代の「影像力」…大戦期の日本寫眞業界の妥協と實踐——總合寫眞誌『報道寫眞』『日本寫眞』から見る

このほか、論文集とりまとめに向け、論文を執筆し、計一七篇の投稿を得た。

二〇二三年 四月一四日 二〇世紀中國史の資料的復元 毛澤東「論新段階」及其統戰策略的解讀問題

發表者 楊 奎松 (京都大學人文科學研究所)

コメントーター 丁 麗瓊 (京都大學人文科學研究所)

二〇二三年 四月二二日 二〇世紀中國史の資料的復元 中共建黨關係資料百年史

發表者 石川禎浩 (京都大學人文科學研究所)

コメントーター 莊 帆 (京都大學人文科學研究所)

- 二〇一三年 二月 一五 日 二〇世紀中國史の資料的復元『盛京時報』は誰が読んでいたのか…近代中國における日系漢字新聞の影響力の射程について 發表者 徐 璐
(京都大學文學研究科)
コメンテーター 和田英男 (近畿大學)
- 二〇一四年 二月 二六 日 二〇世紀中國史の資料的復元 Better Looking than he really is: Being British in Colonial Hong Kong and beyond 發表者 Robert Bickers
(京都大學人文科學研究所・ブリストル大學)
コメンテーター 秋田 茂 (大阪大學人文科學研究科)
- 二〇一四年 二月 九 日 二〇世紀中國史の資料的復元 明清期カントン通事の制度的再検討 發表者 張 子康
(京都大學國際融合教育研究推進センター)
コメンテーター 村上 衛 (京都大學人文科學研究所)
- 二〇一四年 三月 一 日 二〇世紀中國史の資料的復元 戦間期の香港における華人エリートと政治参加…潔淨局議員選舉の復元を例として
- 中國在家の佛教觀…唐道宣撰『廣弘明集』を讀む 班長 船山 徹
最終年度である令和五年度は隔週金曜午後各三時間、以下の通り、合計一四回の研究班を開催した。(一)蕭綱「大法頌(并序) 船山徹、(二)同、魏藝、(三)同、船山徹、(四)同、魏藝、(五)「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」、趙ウニル、(六)「玄圃園講頌(并序)」、船山徹、(七)同、同、(八)梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」、船山徹、(九)「梁簡文帝法寶聯璧序」、倉本尙徳、(一〇)同、同、(一一)「莊嚴旻法師成實論義疏序」、船山徹、(一二)同、中西俊英、(一三)「内典碑銘集序」、魏藝、(一四)同、村田みお、以上一四回。
- 二〇一三年 四月 二二 日 蕭綱「大法頌(并序)」(三) 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 五月 九 日 陸雲「御講波若經序」(四) 發表者 魏 藝 (龍谷大學大學院)
- 二〇一三年 六月 二 日 蕭綱「大法頌(并序)」(五) 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 六月 三〇 日 蕭綱「大法頌(并序)」(七) 發表者 魏 藝 (龍谷大學大學院)
- 二〇一三年 七月 七 日 「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」 發表者 趙ウニル (梨花女子大學校)
- 二〇一三年 九月 一五 日 「玄圃園講頌(并序)」(一) 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 一〇月 六 日 「玄圃園講頌(并序)」(二) 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 一〇月 二〇 日 梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 一〇月 二七 日 「梁簡文帝法寶聯璧序」(一) 發表者 倉本尙徳(所内)
- 二〇一三年 一二月 一 日 「梁簡文帝法寶聯璧序」(二) 發表者 倉本尙徳(所内)
- 二〇一三年 一二月 一五 日 「莊嚴旻法師成實論義疏序」(一) 發表者 船山 徹(所内)
- 二〇一三年 一 月 一 九 日 「莊嚴旻法師成實論義疏序」(二) 發表者 中西俊英 (京都女子大學)
- 二〇一四年 二 月 一六 日 「内典碑銘集序」(一)

發表者 魏 藝

二〇二四年 三月一日 「内典碑銘集序」(二)
(龍谷大學大學院)

發表者 村田みお (近畿大學)

東方文化研究所舊藏漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

『東方文化研究所續増漢籍目録』所收の漢籍について逐冊調査を行い、序跋、藏書印などの知見を「典據情報」にまとめて集積した。將來的には全國漢籍データベースにリンクさせた形でインターネット上に公開する豫定である。

二〇二三年 四月一二日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 四月一九日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 五月一〇日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 矢木 毅

二〇二三年 五月一七日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 楊 維公

二〇二三年 五月二四日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 楊 維公

二〇二三年 五月三十一日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部禮類

發表者 楊 維公

二〇二三年 六月 七日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 高井たかね

二〇二三年 六月一四日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 高井たかね

二〇二三年 六月二一日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 高井たかね

二〇二三年 六月二八日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 永田知之

二〇二三年 七月 五日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 永田知之

二〇二三年 七月一二日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 藤井律之

二〇二三年 七月一九日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部春秋類

發表者 藤井律之

二〇二三年 七月二六日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 古松崇志

二〇二三年 一〇月 四日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 古松崇志

二〇二三年 一〇月 一一日 東方文化研究所續増

漢籍目録 經部四書類

二〇二三年 一〇月 一八日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 一〇月 二五日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 矢木 毅

二〇二三年 一〇月 一一日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 一〇月 一五日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 矢木 毅

二〇二三年 一〇月 二二日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 矢木 毅

二〇二三年 一〇月 二九日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 矢木 毅

二〇二三年 一〇月 六日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 楊 維公

二〇二三年 一〇月 一三日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 楊 維公

二〇二三年 一〇月 二〇日 東方文化研究所續増
漢籍目録 經部四書類

發表者 楊 維公

二〇二三年 一〇月 二七 東方文化研究所續増

二〇二三年	二月二七日	東方文化研究所續増
	漢籍目錄	經部孝經類
	發表者	高井たかね
二〇二四年	一月一〇日	東方文化研究所續増
	漢籍目錄	經部孝經類
	發表者	高井たかね
二〇二四年	一月一七日	東方文化研究所續増
	漢籍目錄	經部孝經類
	發表者	高井たかね
二〇二四年	一月二四日	東方文化研究所續増
	漢籍目錄	經部孝經類
	發表者	永田知之
二〇二四年	一月三一日	東方文化研究所續増
	漢籍目錄	經部孝經類
	發表者	永田知之

漢籍共同研究システムの構築

班長 ウィッテルン クリステイアン
令和五年度は継続的、班員や使用者の要望を中心にプラットフォームの機能を擴張しました。その中の特筆すべき事として、日本漢文文献の對應も可能になりました。また、研究史の觀點と文學の觀點から必要になりました事ですが、複数の翻譯（多い場合は三〇種以上）が同時に検討の對象として出来る仕組みを追加しました。さらに、中國傳統醫學關係文獻を一二九〇點餘り追加しました。そのために醫家類の分類を細分化して、二一子目を追加しました。研究會の方ですが、令和五年度は博士課程の若手研究者も積極的に發表し

て頂いて、議論も活発に行いました。

二〇二三年	四月二八日	Review and outlook of the collaborative platform
	發表者	Christian Wittern (班長)
二〇二三年	五月二二日	A classified catalog and its applications in the TLS
	發表者	Christian Wittern
二〇二三年	五月二六日	Signup, Text-critical editing and Bibliography in the TLS
	發表者	Christian Wittern
二〇二三年	六月 九日	What Can and Cannot Be Said: Attempting to Use the TLS to Measure 'Correctness'
	發表者	Valerie Kiel (班員)
二〇二三年	六月二三日	Further Examples
	發表者	Valerie Kiel (班員)
二〇二三年	七月 七日	Roadmap for further development
	發表者	Christian Wittern
二〇二三年	一〇月二三日	Recent updates to the TLS server
	發表者	Christian Wittern
二〇二三年	一〇月二七日	Suggestions for the User Interface
	發表者	Christian Wittern

the User Interface

二〇二三年	十一月二四日	Translations over time
	發表者	Harry Diakoff (班員)
二〇二三年	十二月 八日	Exploring the usage of 1 yi using language models
	發表者	Florian Kessler (班員)
二〇二四年	一月二二日	Some further musings on computer-assisted intertextuality research and implementable desiderata for search functions in the TLS
	發表者	Joerg Plassen (班員)
二〇二四年	一月二四日 to 二〇二四年 一月二六日	Conceptualizing 'One' (一)
	司會	Andrea Bréard (班員)

秦漢法制史料の研究

班長 宮宅 潔
まず、前年度に引き続き嶽麓書院所藏簡《秦律令(貳)》の會讀を進め、第五六簡から第一二七簡までの七〇簡ほどを讀了した。そのなかには、裁判の長期化を防ぐための指示や、上行文書の細かい書式についての規定が含まれ、これらの重要な條文に十分考證を加えたうえで、譯注を作成した。また、前年度に讀了した《秦律令(貳)》一

『七二簡の譯注原稿を整理し、本年度刊行の『東方學報』に寄稿し、掲載された。里耶秦簡〔壹〕の會讀もこれと平行して行い、これについては關係論文を中國・武漢大學のHP「簡帛網」に投稿する豫定である。あわせて、この研究班を開催母體として、中國・武漢大學、韓國・ソウル大學と共同でオンラインの研究會を四回開催し、戰國秦漢時期の簡牘史料關連の研究報告・討議を行った。

二〇二三年 四月 七日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕五六一六二

發表者 劉 聰 (岡山大學)

二〇二三年 四月一四日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕五六一六二

發表者 劉 聰 (岡山大學)

二〇二三年 四月二日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕五六一六二

發表者 劉 聰 (岡山大學)

二〇二三年 四月二八日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕六三二七二

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 五月二日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕六三二七二

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 五月九日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕六三二七二

發表者 宮宅 潔

二〇二三年 五月二六日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕七三一八一

發表者 飯田祥子

(古代學協會)

二〇二三年 六月 二日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕七三一八一

發表者 飯田祥子

二〇二三年 六月 九日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕七三一八一

發表者 飯田祥子

二〇二三年 六月一六日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕八二一九一

發表者 內山 峻 (明治大學)

二〇二三年 六月二三日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕八二一九一

發表者 內山 峻 (明治大學)

二〇二三年 六月三〇日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕八二一九一

發表者 內山 峻 (明治大學)

二〇二三年 七月 七日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕九二一九九

發表者 高田菜々子

二〇二三年 七月一四日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕九二一九九

發表者 高田菜々子

二〇二三年 七月二一日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕九二一九九

發表者 高田菜々子

二〇二三年 七月二八日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 九月 一日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

(明治大學)

二〇二三年 九月 八日 里耶秦簡會讀 里耶

秦簡⑧一三五四⑧一三九一

發表者 飯田 祥子

二〇二三年 九月一五日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 九月二二日 里耶秦簡會讀 里耶

秦簡⑧一二四四⑧一二七八

發表者 太田麻衣子

二〇二三年 九月二九日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 十月 六日 里耶秦簡會讀 里耶

秦簡⑧一二四四⑧一二七八

發表者 太田麻衣子

二〇二三年 十月一〇日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 十月一六日 里耶秦簡會讀 里耶

秦簡⑧一二四四⑧一二七八

發表者 太田麻衣子

二〇二三年 十月二三日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 十月三〇日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

二〇二三年 十一月 六日 里耶秦簡會讀 里耶

秦簡⑧一二四四⑧一二七八

發表者 太田麻衣子

二〇二三年 十一月一〇日 嶽麓簡會讀 嶽麓

〔伍〕一〇〇一一〇

發表者 齋藤 賢

- 二〇二三年一〇月一三日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一一九
發表者 魏 星
(人間環境學研究科)
- 二〇二三年一〇月二〇日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二四～⑧二二七八
發表者 太田麻衣子
(國士舘大學)
- 二〇二三年一月一〇日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一一九
發表者 魏 星
(人間環境學研究科)
- 二〇二三年一月一七日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二四～⑧二二七八
發表者 太田麻衣子
(國士舘大學)
- 二〇二三年一月二四日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一一九
發表者 魏 星
(人間環境學研究科)
- 二〇二三年二月一日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 林 怡冰
(文學研究科)
- 二〇二三年二月八日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一一九
發表者 魏 星
(人間環境學研究科)
- 二〇二三年二月一五日 里耶秦簡會讀 里耶
- 秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 林 怡冰
(文學研究科)
- 二〇二三年二月二日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一一九
發表者 魏 星
(人間環境學研究科)
- 二〇二四年一月二日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 林 怡冰
(文學研究科)
- 二〇二四年一月一九日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一一一～一二七
發表者 畑野吉則
(立命館大學)
- 二〇二四年一月二六日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 林 怡冰
(文學研究科)
- 二〇二四年二月二日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一二一～一二七
發表者 畑野吉則
(立命館大學)
- 二〇二四年二月九日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 內山 峻 (明治大學)
- 二〇二四年二月一六日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一二一～一二七
發表者 畑野吉則
- 二〇二四年三月一日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 內山 峻 (明治大學)
- 二〇二四年三月八日 嶽麓簡會讀 嶽麓
〔伍〕一二一～一二七
發表者 畑野吉則
(立命館大學)
- 二〇二四年三月一五日 里耶秦簡會讀 里耶
秦簡⑧二二七九～⑧二二二二
發表者 內山 峻 (明治大學)
- 東アジアの宗教美術と社會 班長 稻本泰生
二年目の二〇二三年度も對面・オンラインのハイブリッドで研究會を開催し、メンバーの参加形態は各回ともほぼ半々であった。當班では研究所の藏する拓本資料を活用した龍門石窟造像記の讀解を繼續的に行っている。二〇二三年度は初唐期に主要造像が完成した賓陽南洞を取り上げ、最重要史料である「伊闕佛龕之碑」の精讀を行ったほか、洞内東壁については無紀年・無銘分も含めた全ての造像に網羅的な検討を加えた。またかつて龍門研究院に在籍し、同洞について包括的な研究を行ってきた李瀾氏による二度の研究報告を實施し、最先端の知見を共有することができた。龍門研究に加えてメンバー各人の専門分野に沿った研究報告にも力を入れ、中央アジアから東アジアに及ぶ、佛教關連の遺構と遺物を扱った多彩な発表が行われた。このほか川瀬由照氏をゲストスピーカー

カーとして招き、東アジアの僧形像に關する新説に接する機會を得た。

二〇二三年 四月一日 「伊闕佛龕之碑」會
讀 發表者 稻本泰生

二〇二三年 四月二日 「伊闕佛龕之碑」會
讀 發表者 稻本泰生
(人文科學研究所)

二〇二三年 五月三日 研究報告…唐代龍門石窟における女性佛教徒とその實踐 發表者 李 瀾

(マクマスター大學)

二〇二三年 六月一日 研究報告…敦煌藏經洞出土文書S. 二八九七 V、P. 二六四九 Vに關する一考察——法界佛像との關連性を中心—— 發表者 易 丹韵

(中國社會科學院)

二〇二三年 六月二七日 「伊闕佛龕之碑」會
讀 發表者 稻本泰生

二〇二三年 七月一日 「伊闕佛龕之碑」會
讀 發表者 稻本泰生

二〇二三年 七月二五日 研究報告…藥師如來供養儀式的圖像研究——中古期の敦煌壁畫關連圖像を中心に—— 發表者 黃 蓉 (浙江大學)

二〇二三年 一〇月一〇日 賓陽南洞東壁造像記の再検討 發表者 大谷 弦

(大學院文學研究科)

二〇二三年 一〇月二四日 賓陽南洞東壁造像記

の再検討 發表者 大谷 弦

(大學院文學研究科)

の再検討 發表者 大谷 弦

二〇二三年 一〇月一四日 研究報告…敦煌莫高窟第三二三窟再考 發表者 濱田瑞美

(横濱美術大學)

二〇二三年 一〇月二八日 賓陽南洞東壁造像記の再検討 發表者 大谷 弦

二〇二三年 一〇月二二日 研究報告…トックズ・サライ寺院・建築Bの佛教説話圖について 發表者 篠原典生 (中央大學)

二〇二四年 一〇月二三日 研究報告…賓陽南洞における中小龕の開鑿順序及び供養者ネットワークの研究 發表者 李 瀾

(マクマスター大學)

二〇二四年 一〇月二三日 研究報告…東大寺良辯僧正像の讀み取りと觀音化身説 發表者 川瀬由照

(早稲田大學)

近現代中國の制度とモデル 班長 村上 衛

令和五年度は令和二年度より三年間開催したB班をC班で一年延長する形をとり、最終報告書に向けた報告と若手の報告に重點を置いて開催した。令和四年度までと同様に全て對面とオンラインの併用で實施した。計一八回の研究會を行い、一九人が報告を行い、のべ五六八人の参加を得た。報告者は一〇名が學外に所屬し、九名が若手である。

おおむね報告九〇分、コメント・討論九〇分という時間配分で行われ、對面での参加者が増えたことよって、議論はより活発となった。オンラインを併用したことによって國內や中國・臺灣・韓國からの参加者を得て、對面だけでは得られない貴重なコメントなどをいただくことができた。なお、本研究班と關連して現代中國研究センターでは合評會一回、講演會二回、ラウンドテーブル一回を開催し、研究班の枠を超えて學術交流を促進することができた。

二〇二三年 四月二八日 近現代中國の制度とモデル 近代世界海運の中の東アジア——石炭、穀物、備船市場 發表者 木越義則

(名古屋大學)

二〇二三年 五月一九日 近現代中國の制度とモデル 清代における政治情報の傳播とメディアの變遷 發表者 殷 晴 (埼玉大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年 六月二日 近現代中國の制度とモデル 清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者 發表者 岡田悠希 (大阪大學)

二〇二三年

六月一六日 近現代中國の制度と

モデル 清代後期の州縣官府による非正規の課徴——四川省南部縣の「取行應差」を例として

發表者 穆 林

(文學研究科)

コメンテーター 瀧野正二郎

(山口大學)

二〇二三年

六月三〇日 近現代中國の制度とモデル 越劇女優の「母」と「姉妹」——興業を支えた人々の背景をめぐって

發表者 手代木さづき

(文學研究科)

コメンテーター 藤野眞子

(關西學院大學)

二〇二三年

七月一四日 近現代中國の制度とモデル 清代における女性の刑罰

發表者 平野智也

(文學研究科)

コメンテーター 赤城恵美子

(中央大學)

漢冶萍工業システムの形成——清末石炭供給組織における官・商の性質を例として

發表者 蒙 奇

(文學研究科)

コメンテーター 萩原 充

(釧路公立大學)

コメンテーター 李 培德

(香港大學)

二〇二三年

七月二一日 近現代中國の制度と

モデル 郭嵩燾の理想と実践の考察——「アヘン反對運動」と『中庸章句質疑』を手掛かりに

發表者 顏 琦哲

(京都府立大學)

コメンテーター 苗 婧

(島根縣立大學)

二〇二三年

一〇月 六日 近現代中國の制度とモデル 卫斯林與近代中國市制改革

發表者 申 晴

(人文研／武漢大學)

コメンテーター 諸田博昭

(拓殖大學)

二〇二三年

一〇月二〇日 近現代中國の制度とモデル 一八五〇年代ロシアの對清・對日交渉とポサドニック號事件

發表者 鹽谷哲史(筑波大學)

コメンテーター 森永貴子

(立命館大學)

二〇二三年 一二月一〇日 近現代中國の制度とモデル 清・ジュンガル戦争における清軍捕虜の研究——ホトン・ノールの戦いの清軍捕虜を中心に

發表者 葉 勝

(文學研究科)

コメンテーター 谷井陽子

(天理大學)

二〇二三年

一二月二四日 近現代中國の制度と

モデル 清代中後期における女性知識人の生き方——陳爾士家族を中心に

發表者 瞿 艷丹(人文研)

コメンテーター 伍 躍

二〇二三年

一二月 八日 近現代中國の制度とモデル——上海共同租界の華商・華人企業の資産保護機能の終焉、一九二七年—一九三五年

發表者 本野英一

(早稲田大學)

二〇二三年

一二月二二日 近現代中國の制度とモデル 對中國一九五〇年代「査田定産」問題的再考察

發表者 楊 奎松

(人文研／華東師範大學)

コメンテーター 松村史穂

二〇二四年 一二月九日 近現代中國の制度とモデル マカオの領域確定交渉(一九〇九年)と仲裁裁判

發表者 箱田恵子

(京都女子大學)

コメンテーター 吉澤誠一郎

(東京大学)

二〇二四年

一月二六日 近現代中國の制度とモデル Better Looking than he really is: Being British in Colonial Hong Kong and beyond

發表者 Robert Bickers

(人文研／プリストル大学)

コメンテーター 秋田 茂

(大阪大学)

二〇二四年

二月 二日 近現代中國の制度とモデル 孫文の日本人への最後のメッセージ——島津岬・古屋孫次郎『上海に於ける朝鮮人の實情について』に關する一考察

發表者 濱田直也

(神戸女子大学)

コメンテーター 蔣 海波

(孫文記念館)

二〇二四年

二月一六日 近現代中國の制度とモデル「ドイツ商」遠東銅絲布廠 (German Far East Card Co.) について

發表者 富澤芳亞 (島根大学)

コメンテーター 淺田進史

(駒澤大学)

二〇二四年

三月 八日 近現代中國の制度とモデル 登記の時代三：南京土地登記文書からみる「所有權」

發表者 田口宏二郎

(大阪大学)

コメンテーター 佐藤 創

(南山大学)

アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出 班長 稻葉 穰・中西龍也

令和五年度は、全一七回の研究会を開催した。

うち六回は、アフマド・スィルヒンディー『書簡集』(ペルシア語)の會讀を行い、譯注作成作業を進めた。スーフィズムの思想・體驗を記した当該テキストは極めて難解で、讀み進めた分量はそれほど多くないが、そのぶん討論に多くの時間を割き、テキストの精密な讀解を心掛けた。宗教文化の越境的波及の代表的な事例であるムジャッディディーや派のスーフィズムに關する新しく深い知見を參加者のあいだで蓄積・共有し得た。このりの一回は、班員の研究報告會(都合七回、うち二回は英語による)や海外からのゲスト・スピーカーの講演會(都合四回、いずれも英語による)を開催した。個々の研究報告の具體的内容は多岐に渡ったが、總じて、ある「地域」を越えた宗教文化現象が当該「地域」の形成や想像に如何なるインパクトを與えたかについて豊富な事例、鋭い洞察を提供したといえる。

二〇二三年 四月一四日 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創

造 ムジャッディディーや派が 中國西北部にもたらしたもの

——「スーフィズム四大流派」

言説と中國ムスリム・アイデンティティ 發表者 中西龍也

(京都大学人文科學研究所)

二〇二三年

四月二八日 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也

(京都大学人文科學研究所)

二〇二三年

五月一二日 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也

(京都大学人文科學研究所)

二〇二三年

五月二六日 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 An Examination of Variations on the Buddhist Doctrine of Momentariness and Their Transmission to Early Islamic Theologians: Sources, Methods, and Arguments for Establishing a Philosophical Genealogy of Early Occasionalism

發表者 Browning, Jason

(Indiana University Bloomington)

／京都大学人文科學研究所

(外國人共同研究者)

二〇一三年

六月 九日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 Marginal Sources for the
Study of Egyptian Cities and
Towns (13-18th centuries)

發表者 Magdi Guirguis
(Kafelshnik University)

The Archaeological Mission in
the Atrek Valley, New Dis-
coveries 發表者 Rocco Rante

(Musée du Louvres)

二〇一三年

六月 二三日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 アフマド・スイルヒン
ディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也
(京都大學人文科學研究所)

二〇一三年

七月 一四日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 近代オスマン朝における同
化・適應がもたらしたもの：ア
ブデュルハミト二世期における
ハミディイエ連隊・クルド・
イエズイデー

發表者 岩本佳子
(京都大學文學研究科)

二〇一三年

七月 二八日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創

造アフマド・スイルヒン
ディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也
(京都大學人文科學研究所)

二〇一三年

九月 二二日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 Discovery of cotton fibres in
some pre-Islamic paper from
the Tarim Basin (Xinjiang,
China) 發表者 慶 昭蓉

(京都大學白眉センター)

二〇一三年

一〇月 二三日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 アフマド・スイルヒン
ディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也
(京都大學人文科學研究所)

二〇一三年

一〇月 二七日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 アフマド・スイルヒン
ディー『書簡集』會讀

發表者 中西龍也
(京都大學人文科學研究所)

二〇一三年

一一月 一〇日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 Preservation and Revitali-
zation of Cultural Heritage in
Central Asia

司會 慶 昭蓉 (京都大學)

白眉ヤンター: One Century of

DAFA: Achievements and Per-
spectives 發表者 Henri-Paul

FRANCFORT

(Institut de France)

The Central Asian branch of
ArScAn (Archaeology and Sci-
ence of Antiquity, CNRS-
University Paris-Nanterre):
Main Expeditions and Current
Research

發表者 Corinne DEBAINE-
FRANCFORT

(Centre national de la
recherche scientifique)

Gāndhārī Documents from
South and Central Asia: New
Discoveries and Research

發表者 Stefan BAUMS
(Ludwig-Maximilians-
Universität München)

二〇一三年

一一月 二七日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創
造 アラビア文字墓碑銘を読み
解く——二二〇世紀の事例
から 發表者 井谷鋼造

(京都大學文學研究科
(名譽教授))

二〇一四年

一月 二六日 アジアにおける宗教

諸文化の越境波及と「地域」創造
バルカンにおけるサル・サル
トゥク廟の現状

発表者 今松 泰

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

二〇二四年

二月 九日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創造
Nagshandi-Wahabi rivalry as a major force in the
modernization of the Islamic
world

発表者 Michael Leezenberg
(University of Amsterdam)

二〇二四年

二月二日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創造
イランにおける聖地・聖廟
の発展と變容——マシユハドと
ゴムを事例に——

発表者 杉山隆一
(京都橋大学)

二〇二四年

三月 八日 アジアにおける宗教
諸文化の越境波及と「地域」創造
司會 中西龍也
(京都大学人文科学研究所)

Contextualising al-Biruni's
Tahqiq mā li-l-Hind as a source
for the cultural history of early
medieval Panjab

発表者 Noémie Verdon
(Maire Assistante)

Ambizione FNS, Department of
Slavic and South Asian Studies,
University of Lausanne: Visualizing
Afghanistan: Images and narratives of the Bamiyan
Buddhas in twentieth-century
Japan

発表者 Shamin Homayun
(Australian National University,
School of Archaeology and
Anthropology)

『玉燭寶典』研究

班長 古勝隆一

本年度は、本研究班にとって第一年目であり、
また、本研究班は譯注の形式を取らないため、前
半期においてはさまざまな角度から『玉燭寶典』
に検討を加えた。それにより、書寫された文字を
どのように研究し、どのように電子化してゆくの
かについて大體の方針を立てることができ、また
日本に傳承された漢籍の取り扱いについて、基本
的な認識を得ることができた。さらに後半期にお
いて、卷一（全十一巻のうち）の大部分を讀解す
ることができた。同書に引用された漢籍（傳存文
獻および佚書）について、擔當者が資料を作成し、
詳しく検討した。

二〇二三年 四月一八日 本研究班の趣旨説明、
および今後の進め方

司會 古勝隆一

二〇二三年 五月一六日 『玉燭寶典』前田本
の用字をめくって

発表者 古勝隆一

二〇二三年 六月二〇日 『玉燭寶典』テクス
トデータのTEIによる構築

発表者 白須裕之

二〇二三年 七月一八日 『玉燭寶典』をめぐ
る日本の事情に關する先行研究
および日本の歲時記に引用され
た『玉燭寶典』

発表者 重田みち
(京都藝術大学・通信教育部)

二〇二三年一〇月二四日 『玉燭寶典』序を讀
む

発表者 道坂昭廣
(人間・環境學研究科)

二〇二三年一月二日 『玉燭寶典』卷一を
讀む①

発表者 田尻健太
(文學研究科)

二〇二三年二月一九日 『玉燭寶典』卷一を
讀む②

発表者 永田知之

二〇二四年 一月一六日 『玉燭寶典』卷一を
讀む③

発表者 藤井律之

二〇二四年 二月二〇日 『玉燭寶典』卷一を
讀む④

発表者 富 嘉吟
(お茶の水女子大学・基幹研究院)

二〇二四年 三月一九日 『玉燭寶典』卷一を
讀む⑤

発表者 魏 星

(人間・環境學研究科)

古典中國語コーパスの應用研究 班長 安岡孝一

古典中國語 Universal Dependencies の擴張對象として『日本書紀』を選定し、形態素解析のためのコーパス設計を開始した。『日本書紀』の「漢文」は、大きく α 群と β 群に分かれており、 α 群は古典中國語に近いが、 β 群は上代日本語の「漢譯」である。實際にコーパスを作りかけてみたところ、 β 群の方が明らかに手強い。特に複雑なのが「之」と「者」の用法であり、古典中國語から「かけ離れた」用法が散見される。これらの用法を、Universal Dependencies においてどう記述するかについて、試行錯誤を繰り返している。

二〇二三年 四月二二日 過去の共同研究班の成果(抜粹)

二〇二三年 五月二二日 『古事記』と『日本書紀』

二〇二三年 六月二二日 ICBIR 二〇二三年 三(LDA 二〇二二) 報告

二〇二三年 六月一六日 『通照發揮性靈集』と『法華玄義』

二〇二三年 七月二二日 『日本書紀』 Universal Dependencies エディター

二〇二三年 七月二八日 『東洋學へのコンピュータ利用』第三六回研究セミナー

二〇二三年 九月八日 『日本書紀』の「之」

二〇二三年 九月二二日 『AI等の活用を推

進する研究データエコシステム構築事業シンポジウム二〇二三年三月 グラチェック

二〇二三年一〇月 六日 『日本書紀』の「之」と「者」

二〇二三年一〇月二〇日 『じんもんこん...』二〇二三』 グラチェック

二〇二三年一二月 七日 Universal Dependencies 11・111

二〇二三年一二月 一日 『日本書紀』における非漢文

二〇二四年 一月一九日 『東洋學へのコンピュータ利用』第三七回研究セミナー

二〇二四年 二月 二日 『日本書紀』の「之」と「者」

隋唐石刻資料の研究 班長 倉本尙徳

初年度である令和五年度は、計一八回の研究会を開催した。隋代の重要な石刻數點を研究對象にとりあげ、人文研所蔵の拓本以外に數種の拓本畫像や著録を比較對照して文字校訂と譯注作成を行った。特に隋王朝の佛教復興政策にかかわる舊北齊地域の碑刻を重點的にとりあげた。基本的にZOOMを用いたオンラインと對面形式の雙方を用いたハイブリッド形式にて開催し、会場が使えない場合などはZOOMオンラインのみで開催した。ハイブリッド形式は、中國の大學で勤務する班員から日本では入手困難な資料や情報の提供を

得られたこと、また、会場では石刻拓本の實物を目の前にし議論をかわすことができるという互いの長所をとりいれることができ、非常に有効であった。七月には北魏から唐まで見解が分かれている劉賢墓誌の年代考證にかかわり、南開大學の梶山智史氏による研究報告會を開催した。

二〇二三年 四月一四日 隋代石刻資料の概要 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 四月二八日 龍藏寺碑(一) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 五月二二日 龍藏寺碑(二) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 五月二六日 龍藏寺碑(三) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 六月 九日 龍藏寺碑(四) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 六月二三日 龍藏寺碑(五) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 七月一四日 龍藏寺碑(六) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年 七月二八日 劉賢墓誌再考 發表者 梶山智史

二〇二三年 九月二二日 (南開大學 歴史學院) 龍藏寺碑(七) 發表者 倉本尙徳

二〇二三年一〇月一三日 曹子建碑(一) 發表者 成田健太郎

二〇二三年一〇月二七日 曹子建碑(二) (文學研究科)

發表者 成田健太郎

(文學研究科)

二〇二三年 一月二四日 □静慕誌 (一)

發表者 藤井律之

二〇二三年 二月 八日 □静慕誌 (二)

發表者 藤井律之

曹子建碑 (三)

發表者 成田健太郎

(文學研究科)

二〇二三年 二月二日 詔立僧尼二寺碑

(一) 發表者 池平紀子

(大阪公立大學)

國際基幹教育機構・

現代システム科学研究科

二〇二四年 一月二日 詔立僧尼二寺碑

(二) 發表者 池平紀子

(大阪公立大學)

國際基幹教育機構・

現代システム科学研究科

二〇二四年 一月二六日 詔立僧尼二寺碑

(三) 發表者 池平紀子

(大阪公立大學)

國際基幹教育機構・

現代システム科学研究科

二〇二四年 二月 九日 王婆羅□造像記

(一) 發表者 佐野誠子

(名古屋大學大學院)

人文學研究科

二〇二四年 三月 八日 王婆羅□造像記

(二) 發表者 佐野誠子

(名古屋大學大學院)

人文學研究科

交流と相克のユーラシア東方史班長 古松 崇志

研究テーマの「交流と相克のユーラシア東方史」について具體的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟會編』の會讀を進めた。

二回にわたって『三朝北盟會編』の會讀をおこない、『中華再造善本』所收の中國國家圖書館(北京圖書館)所藏の明鈔本を底本に、テキストの校訂・譯注作業を進め、卷二十三から卷二十四までを読み終えた。オンライン會議・對面のハイブリッドおよびオンライン會議のみの形式で開催した。

二〇二三年 五月 九日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 古松崇志

二〇二三年 五月二三日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 高井たかね

二〇二三年 六月 六日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 矢木毅

二〇二三年 六月二〇日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 武田和哉

二〇二三年 七月 四日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 飯山知保

二〇二三年 七月二一日 研究發表 南宋末期の士人の科擧觀——姚勉「癸丑廷對」を中心に——

發表者 山西慶哉

二〇二三年 七月一八日 『三朝北盟會編』卷二十三會讀

發表者 毛利英介

二〇二三年一〇月二四日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 伊藤一馬

二〇二三年 十一月二日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 小野達哉

二〇二三年 二月〇五日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 藤 本 猛

二〇二三年 二月一九日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 岩本眞利繪

二〇二四年 一月一六日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 船田善之

二〇二四年 一月三〇日 『三朝北盟會編』卷二十四會讀

發表者 井黒 忍

人文學研究部

近代日本の宗教と文化 班長 高木博志

二〇二三年二月刊行の『人文學報』特集「近代京都と文化(一〇本の論考)」に續き、共同研究報告書・高木博志編『近代京都と文化「傳統」の再構築』(同年八月、思文閣出版、二二本論文)として上梓した(詳細は論文一覽)。五月に畝傍山・神武陵・洞部落跡・橿原神宮、九月に茨木キリシタン遺跡、三月に金光教本部のフィールドワークをおこなうなど一回の共同研究班を開催した。宗教と文化をめぐる、キリシタン、映画メディア、天皇制、文化財、金光教聖地、教育敕

語、仙臺の民俗行事、皇太子外遊などの報告を重ねて、共同研究を深めている。共同研究成果については、『近代日本の宗教と文化（仮題）』（思文閣出版、二〇二五年度）に向けて、準備している。

二〇二三年 四月 一日 近代日本と宗教と文化 近代現代の神社と世襲的な神職と地域の正月飾りの文化史
 発表者 佐藤雅也
 （仙臺市歴史民俗資料館）

二〇二三年 五月 七日 近代日本と宗教と文化 畝傍山・神武陵・洞部落跡・橿原神宮―幕末から皇紀二六〇〇年事業までのフィールドワーク
 発表者 山本信彦

二〇二三年 六月 一七日 近代日本と宗教と文化 明治大正期の日本映畫と皇室のイメージ戦略
 発表者 紙屋牧子（玉川大學）
 二〇二三年 七月 二三日 近代日本と宗教と文化 杉孫七郎と寺社・宮内省――泉涌寺を通して――
 発表者 齊藤紅葉
 （國士館大學）

二〇二三年 九月 二日 近代日本と宗教と文化 茨木市立文化財資料館寄託キリシタン遺物熟覽および千提寺・下音羽フィールドワーク
 発表者 桑野 梓
 （茨木市立文化財資料館）

二〇二三年 一〇月 七日 近代日本と宗教と文化 文化財鑑賞と京都・奈良觀光の社會史
 発表者 菅沼明正
 （九州産業大學）

二〇二三年 一二月 五日 近代日本と宗教と文化 大正期の映畫と民衆宗教
 発表者 富田美香
 （國立映畫アーカイフ）
 日本における教育・宣傳映畫の歩みと宗教――無聲映畫の時代――
 発表者 兒山陽子
 （金光圖書館）

二〇二三年 二二月 二三日 近代日本と宗教と文化 教育敕語普及團體・一德會の基礎的研究
 発表者 谷川 穰
 （文學研究科）
 祇園祭山鉾のまつり方の變化（近世中後期を中心に）
 発表者 村上忠喜
 （京都産業大學）

二〇二四年 一二月 二〇日 近代日本と宗教と文化 日本左翼運動の政治文化と追悼儀禮…一九二〇年代後期から三〇年代初期までの「勞農

葬」を中心に――

発表者 胡 安美
 （文學研究科）
 敗戦後プロテスタント・キリスト教大學による農村傳道構想…同志社の農本文化事業を通して
 発表者 田中智子
 （教育學研究科）

二〇二四年 二二月 二一日 近代日本と宗教と文化（人文研アカデミー）「近代天皇制を考える學術集會――「建國記念の日」に問う」昭和天皇の外遊（一九二一年）をめぐるイメージ・ポリティクス
 発表者 紙屋牧子（玉川大學）
 慰撫と反復…歌の〈私〉と天皇制
 発表者 石井美保
 「理念としての天皇」論
 発表者 福家崇洋
 天皇制と陵墓問題…世界遺産名稱「仁德天皇陵古墳」を問う
 発表者 高木博志

二〇二四年 三三月 一六日 近代日本と宗教と文化（金光教會・金光圖書館フィールドワーク）農業集落から門前町への軌跡…明治初期の社殿建築をめぐる村落有力者と金光大神の關係を中心に
 発表者 兒山眞生

(金光圖書館)

藝術と社會——近代における創造活動の諸相——

班長 高階繪里加

四年計畫の第四年目となった本年は、計八回の研究會を開催した。内容は以下の通りである。「日本畫グループ」「景聽園」の活動」「日中戦争・國共内戦期の中國モダニズム繪畫からみる「個人」と「國家」」「一九三〇—四〇年代日本におけるフランス文化の發信とその受容」「スペイン・インフルエンザと美術・忘却の淵から甦ったパンデミック」「竹内栖鳳の前衛性」「東本願寺舊藏の品々・二度の賣り立てを中心に」「明治期正本寫出版の復興と衰退」「本願寺西山別院本堂障壁畫について」。近現代の日本、東アジア、ヨーロッパにおける藝術活動と社會状況の相互影響、國際的交流、コレクションの生成、メディアと藝術受容の様相等についての報告が行われた。

二〇二三年 四月一日 日本畫グループ「景

聽園」の活動

發表者 古田理子

(高島屋史料館)

二〇二三年 五月一日 日中戦争・國共内戦

期の中國モダニズム繪畫からみる

「個人」と「國家」

發表者 吳 孟晉

二〇二三年 六月一日 一九三〇—四〇年代

日本におけるフランス文化の發

信とその受容

二〇二三年 七月二九日 發表者 藤野志織

エンザと美術・忘却の淵から甦ったパンデミック

發表者 河本眞理

(日本女子大學)

二〇二三年二月二八日 竹内栖鳳の前衛性

發表者 森 光彦

(京都市京セラ美術館)

二〇二三年二月二日 東本願寺舊藏の

品々・二度の賣り立てを中心に

發表者 國賀由美子

(大谷大學)

二〇二三年二月三日 明治期正本寫出版の

復興と衰退 發表者 金 智慧

二〇二四年 三月 九日 本願寺西山別院本堂

障壁畫について

發表者 大原由佳子 (文化廳)

ポスト・ヒューマン時代の起點としてのフランス

象徵主義

班長 森本淳生

令和五年度は研究報告會と譯讀會を計一一回開催した。報告會では令和四年度にひきつづき、メンバーがそれぞれの研究テーマについて發表し知見の共有に努めた。具體的には、モレアス、パンヴィル、ユゴー、ヴァレリー、ロラン、ドビュッシー、リラダン、ローデンバックなどの作家・音楽家を考察の中心に据え、詩法・小説・音楽・メディアの觀點から象徵主義を分析した。あわせて、

人文研アカデミーの枠内でシンポジウム「催眠と

アンドロイド——ヴィリエ・ド・リラダン『未來のイヴ』をめぐるふたつの會話』を開催し、『未來のイヴ』を文學のみならず精神醫學やロボット

の哲學の觀點から讀み直し、社會還元を努めるとともに、人文研招聘のクローディ・ベルナルによる講演會も實施した。譯讀會では、令和四年度に終了したギルの詩集『至善の生成 (J'e meurtur de venir)』の翻譯・註解の原稿を『人文學報』に

投稿し、初校の校正を終えている。同書はフランスでも註解がほとんど存在せず、翻譯されるもの(英譯等も含め)世界初の試みである。譯讀會はその後、レニエの『古のロマネスク詩集』に移り、

順調に翻譯・註解が進んでいる。企畫している象徵主義に關する「讀む事典」については「ヴァレリー」の項目を完成させた。これを見本として、令和六年度以降各項目の執筆を加速化させたい。

二〇二三年 五月一日 「象徵主義研究」例會(一四) 一八九〇年代のモレアスにおける象徵主義

發表者 立花 史

(早稻田大學)

アンリ・ド・レニエ『古のロマ

ネスクナ詩』の翻譯に向けて

發表者 鳥山定嗣

(文學研究科)

二〇二三年 五月一日 象徵主義文獻の翻譯

と註釋(アンリ・ド・レニエ

『古のロマネスクナ詩』(一)

Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, I-II

發表者 松浦菜美子

(關西學院大學)

コメンテーター 森本淳生

二〇一三年 七月二二日「象徴主義研究」例会(一五) テオドール・ド・パンヴィルと象徴派詩人たち

發表者 松村悠子

(早稲田大學)

感覺運動サイクル、錯綜體、詩的創造——ヴァレリー『コレージュ・ド・フランス詩學講義』をめぐって

發表者 森本淳生

二〇一三年 七月二三日 象徴主義文獻の翻譯と註釋(アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』(二) Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, III-IV

發表者 松浦菜美子

(關西學院大學)

コメンテーター 森本淳生

二〇一三年 一〇月 七日「象徴主義研究」例会(一六) 早咲きの紋情詩人? ヴィクトル・ユゴーの抒情詩の變遷 發表者 中野芳彦 (慶應義塾大學)

ジャン・ロランのジャーナリス

ト作家としてのスタイル 世紀轉換期の「噂話の詩學」

發表者 辻 昌子

(大阪公立大學)

二〇一三年 一〇月 八日 象徴主義文獻の翻譯と註釋(アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』(三) Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, V

發表者 菅原百合繪

コメンテーター 鳥山定嗣

(文學研究科)

二〇一三年 一二月二五日「象徴主義研究」例会(一七) 絶對音樂と象徴主義

發表者 黒木朋興(上智大學)

音樂の修辭的辯論から詩的解釋へ——ドビュッシェ『ボードレールの五つの詩』より Le Balcon における音樂的モチーフの機能——

發表者 上田泰史

(人間・環境學研究科)

二〇一三年 一二月二六日 象徴主義文獻の翻譯と註釋(アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』(四) Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, VI-VII

發表者 菅原百合繪

Poèmes anciens et romanesques: Le Salut à l'étrangère, I

發表者 學谷亮(中京大學)

コメンテーター 岡本夢子

(滋賀縣立大學)

二〇一三年 一二月一六日 催眠とアンドロイド——ヴィリエ・ド・リラダン『未來のイヴ』をめぐるふたつの會話 司會 森本淳生

コメンテーター 木元 豊

(武藏大學)

發表者 中筋 朋

(人間・環境學研究科)

發表者 上尾眞道 (廣島市立大學)

發表者 井上卓也(日本學術振興會特別研究員(PD))

發表者 宇佐美達朗 (京都大學非常勤講師)

二〇一四年 三月 二日「象徴主義研究」例会(一八) Essai d'une généalogie de « La Soirée avec Monsieur Teste »

發表者 森本淳生

Le veuf la sainte et la tentatrice dans les romans de Georges Rodenbach

發表者 森本淳生

Le veuf la sainte et la tentatrice dans les romans de Georges Rodenbach

發表者 森本淳生

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

發表者 宇佐美達朗

二〇二四年 三月 三日 「象徴主義研究」例

會(一九) ソワナの復讐 ヴィ
リエ・ド・リラダン 『未來のイ
ヴ』におけるジェンダー闘争

発表者 木元 豊(武蔵大学)
象徴主義ブルーストの美学的
觸媒

発表者 中野知律(一橋大学)

二〇二四年 三月 一日 象徴主義文獻の翻譯
と註釋(アンリ・ド・レニエ
『古のロマネスクな詩』)(五)

Poèmes anciens et roman-
esques. Le Salut à l'étrangère.
I-II

発表者 學谷 亮(中央大学)

コメンテーター 岡本夢子

(滋賀県立大学)

近現代日本の研究資源に關する基礎的研究

班長 小堀 聰・福家崇洋

本年度は主に、京都大学内外の各種資料のうち、
以下の整理を行なった。まず、京都大学内は人文
研究所蔵岩井會舊藏資料および京都大学職員組合所
藏資料である。前者は昨年度からの繼續であり、
アルバイトも雇用しつつ、早期公開に向けた整理
作業を進めている。また、本年度に整理を開始し
た京都大学職員組合所藏資料は一九四八年結成以
來の膨大な資料群であり、職組OBの協力も得つ
つ整理作業を行なっている。職組内部資料のほか

科学者運動の資料も含む貴重な資料であることが
明らかになった。學外の資料としては、核融合科

学研究所蔵「森一久資料」の調査と整理を繼續
したほか、名古屋大学経済学研究所蔵「荒木光
太郎文書」の整理を開始した。これは東京帝国大

学経済学部教授を務めた荒木光太郎の舊藏資料で
あり、経済政策や日本占領政策にかんする文書や
寫真などで構成される。いずれも資料所藏機關と
方針を相談しつつ作業を進めた結果、假日録の作
成作業が概ね完了した。

二〇二三年 四月 二五日 京都大学職員組合資

料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二三年 五月 一八日 岩井會資料の整理と

意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋・

ティル・クナウト

(人文科学研究所)

二〇二三年 五月 二五日 尼崎市立歴史博物館

での資料整理と意見交換

発表者 黒川伊織・福家崇洋

(エルライブラリー・

人文科学研究所)

二〇二三年 六月 一四日 森一久資料(核融合

科学研究所蔵)の整理と意見

交換

発表者 小堀 聰・喜多川進・

瀬戸口明久(人文科学研究所・

二〇二三年 六月 一五日 森一久資料(核融合

科学研究所蔵)についての意
見交換

発表者 小堀 聰・喜多川進

(人文科学研究所・山梨大学)

二〇二三年 七月 二一日 岩井會資料の整理と

意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

二〇二三年 七月 二六日 荒木光太郎(名古屋

大学大学院経済学研究科附屬國

際経済政策研究センター情報資

料室所蔵)の整理と資料所藏機

關との意見交換

二〇二三年 八月 二九日 京都大学職員組合資

料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰

(人文科学研究所)

二〇二三年 九月 二一日 荒木光太郎(名古屋

大学大学院経済学研究科附屬國

際経済政策研究センター情報資

料室所蔵)の整理と資料所藏機

關との意見交換

発表者 小堀 聰

(人文科学研究所)

二〇二三年 一〇月 三日 京都大学職員組合資

料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰

(人文科学研究所)

料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二三年一〇月一九日 森一久資料(核融合科学研究所所蔵)の整理と資料所蔵機関との意見交換

発表者 小堀 聰

(人文科学研究所)

二〇二三年一〇月三十一日 京都大学職員組合資料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二三年一二月二十九日 岩井會資料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二三年一二月二日 森一久資料(核融合科学研究所所蔵)の整理と資料所蔵機関との意見交換

発表者 小堀 聰

(人文科学研究所)

二〇二四年一二月一日 京都大学職員組合資料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二四年一二月一六日 京都大学職員組合資料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

二〇二四年 二月二八日 荒木光太郎(名古屋

大学大学院経済学研究科附属國

際経済政策研究センター情報資

料室所蔵)の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・牧野邦昭

(人文科学研究所・

慶應義塾大学)

二〇二四年 三月一四日 京都大学職員組合資

料の整理と意見交換

発表者 小堀 聰・福家崇洋

(人文科学研究所)

モノ・知識・環境 班長 瀬戸口明久

令和五年度は例會を一〇回開催し、研究の方向

性について検討した。報告内容は、植物標本、統

計データ、マイコン、社會學理論、臺灣の犁、

出產統計、言語學、植物特許、技術思想、トラク

ターなどである。これらの議論を通じて、モノ・

知識・環境というテーマでどのような問題が検討

しうるか議論した。そのうち一〇月例會(保明綾

報告)では、パンデミック班と合同で行い、人文

研内のほかの研究班との連携を試みた。そのほか

『思想』一〇月號のトーマス・クーン小特集には、

本研究班から瀬戸口と岡澤が寄稿した。この小特

集について三月に合評會を行い、本研究班が目指

す理論的枠組みについて検討した。二月には班員

の河村賢氏のオーガナイズで韓國科学技術院との

共催ワークショップを開催し、本研究課題に關わ

る研究を進めている韓國の大学院生や若手研究者

と交流した。

二〇二三年

四月二八日 「モノ・知識・環境」

四月例會 発表者 瀬戸口明久

(人文科学研究所)

混沌から秩序へ——モノがつく

りあげる世界

二〇二三年

五月二六日 「モノ・知識・環境」

五月例會 発表者 岡澤康浩

(人文科学研究所)

〈印刷された数字の雪崩〉と統

計データの出現…オブジェクト

制作のメディア環境史に向けて

二〇二三年

六月二三日 「モノ・知識・環境」

六月例會

発表者 クナウト テイル

(人文科学研究所)

Against Invaders, Pirates, and

Wizards: Technological Inter-

est and Young Microcomputer

Users in 1980s Japan

二〇二三年

九月 一日 「モノ・知識・環境」

九月例會

発表者 河村 賢(大阪大学)

実践のなかの概念を捉える…リ

ンチ・ハッキング・ダストン&

ギャリソン

二〇二三年

九月二九日 「モノ・知識・環境」

九月例會

発表者 都留俊太郎

- (人文科学研究所)
 犁と機智：日本統治期臺灣における模造・改造深耕犁の流通
 二〇二三年 一〇月二七日 「モノ・知識・環境」
 一〇月例会 (バンデミック班共催)
 発表者 保明 綾
 (マンチェスター大学)
 産婆と人口統計——日本の「人口」の健康のために——
 二〇二三年 一月二四日 「モノ・知識・環境」
 一月例会 発表者 伊藤順二
 (人文科学研究所)
 ニコライ・マルの系譜：コーカサスの言語学小史
 二〇二三年 一月二日 「モノ・知識・環境」
 二月例会
 発表者 Kjell David Ericson
 (學際融合教育 研究推進センター)
 日本植物特許第一號の歴史：「ミブヨモギ時代」を中心に
 二〇二四年 一月二六日 「モノ・知識・環境」
 一月例会 発表者 河西棟馬
 (東京工業大学)
 ルイス・マンフォードの史論——『技術と文明』(一九三四)再訪
 二〇二四年 二月一六日 「モノ・知識・環境」
 二月例会 発表者 藤原辰史

- (人文科学研究所)
 トラクターの世界史
 二〇二四年 三月二二日 『思想』 クーン小特集
 集合評會
 発表者 塚原東吾 (神戸大学)
 「いまさら」から、「いまこそ」にするにはどう考えたか：古典再生の試み
 発表者 瀬戸口明久
 (人文科学研究所)
 コメント 発表者 岡澤康浩
 (人文科学研究所)
 『思想』クーン特集號合評會コメント
 発表者 大西琢朗
 (文學研究科)
 『思想』特集「トマス・クーン——『科学革命の構造』再讀——」へのコメント
 司會 河村 賢 (大阪大学)
 生きる営みと環境問題
 班長 岩城卓二
 令和四年度末で終了した「環境問題の社會史的
 研究」班を引き継ぎ、令和五・六年度の期間、「
 生きる営みと環境問題」班として實施する本研
 究班は、令和五年度、一〇回の研究會を開催した。
 報告は、人の生きる営みが引き起こす環境破壊の
 過程や、公害と認知されて以降の活動等々を具體
 的事實をもつて明らかにした。具體的には、沖縄
 戦における軍事環境の構築と、その選擇的な再編、

- 遺構がもつ政治的意味、「史上最大・最悪の公害」
 である福島原発事故の特質を「ふるさと」被害と
 し、被害の總體を把握する試み、公害の経験から
 地域の「生きる價值」を見いだす歩み、公害反対
 運動における女性の役割等が明らかにされた。ま
 たマルクスの物質代謝論と方法的二元論を参照し
 ながら、現在、環境問題にどのように向き合うべ
 きなのかの理論的検討も行った。初年度は、公害
 と認識される前、認識されて以降、認識後の取り
 組み、それらが表面的には解決した現在の取り組
 みと、時間的流れの中で環境問題と生きる営みの
 關係性を明らかにできた。
 二〇二三年 五月二二日 公害の経験から「地
 域の價值」をつくるとりくみ
 ——倉敷・水島の公害地域再生
 と多視點性——
 発表者 林 美帆
 (公益財団法人 水島地域環境再生財團)
 二〇二三年 六月二六日 青空がほしい再訪
 ——高度成長期戸畑の婦人會に
 よる反公害運動の道のり
 発表者 小堀 聰
 二〇二三年 八月一九日 マルクスの物質代謝
 論と方法的二元論
 発表者 齋藤幸平 (東京大学 大学院總合文化研究科)
 二〇二三年 九月二五日 「大地」への歸還
 ——マラリア・農地改革・

WWF——

- 発表者 松嶋 健
(広島大学大学院
人間社会科学研究科)
二〇一三年 二月二四日 福島原発公害最大の
被害「ふるさと剥奪」
発表者 關 禮子
(立教大学社会学部)
二〇一三年 二月二八日 黎明期の宇宙開發政
策と「一元化」問題
発表者 福家崇洋
二〇一四年 一月二二日 軍事環境を生きたる
——沖繩戦における壕、共同体、
生存可能性——
発表者 石井美保
二〇一四年 二月 五日 一八世紀日本の時計
駆動式宇宙模型と大衆向け宇宙
論講義
発表者 平岡隆二
二〇一四年 二月一九日 〈視聽者〉の系譜
——環境制御の技術としてのテ
レビジョン——
発表者 岡澤康浩
二〇一四年 三月 八日 近世東北の鐵生産と
錢、土砂、洋式高爐——一九世
紀の仙臺藩を事例に——
発表者 高橋美貴
(東京農工大学大学院
農学研究科)

文化資源と文化運動

班長 菊地 曉

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運
動」という観点から再考する本研究班は、令和五
年度、アカデミズムと市民的公共圏をつなぐ「公
民民俗学 public folklore」に関する研究会、民間
信仰研究を中心とした「歴史民俗学 historical
folklore」に関する研究会を実施したほか、関連
するいくつかの豫備的な研究会を実施した。その
ほか、京都市左京区に関する文化資源の収集・整
理事業に協力した。

二〇一三年

八月 八日 文化資源と文化運動

文化資源と文化運動

発表者 菊地 曉

フィールド・學史・現實社会

——矢野民俗学を読み直す——
発表者 辻本侑生 (弘前大学)

地域の文化資源を編み直す——
北九州大衆文化史研究会の構想

——
発表者 眞鍋昌賢
(北九州市立大学)

小鳥と蟲と草花と——あるいは
登山と言葉と——
発表者 高木史人
(武庫川女子大学)

雑誌とサロン——新渡戸稻造・
柳田國男と學知／學歴——
発表者 矢野敬一 (静岡大学)

九月二三日 日本民俗学講習會
パブリックでも良いが、パブ

二〇一三年

発表者 村中健太
(十和田市役所)

青森縣で研究すること

(群馬パース大学)

鈴木英恵

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

発表者 村中健太
(十和田市役所)

多様な史資料への目配り

発表者 佐藤 優（盛岡大学）

先生と私

発表者 山田厳子（弘前大学）

「東方朔」連作論文再讀

発表者 渡部圭一（京都先端科学大学）

簞簋・大雑書・奥會津——小池

先生の背中——

発表者 馬場真理子（東京大学）

小池先生のご研究からの影響

発表者 松山由布子（中京大学）

青森県における舊暦から新暦への切りかえについて

発表者 下村育世（国立歴史民俗博物館）

新陰陽道叢書覺書

発表者 赤澤春彦（攝南大学）

企畫展「陰陽師とは何者か」までの道のり

発表者 梅田千尋（京都女子大学）

歴史と民俗のあいだ——小池淳一論序説——

発表者 井上智勝（埼玉大学）

三月 九日 民俗學座談 民俗學的知の現状と課題

発表者 菊地 暁

発表者 島村恭則（関西学院大学）

高度經濟成長期の生活史

二〇二三年度は、『暮しの手帖』という雑誌のなかで、いったいなにが研究の問題となるのかについての豫備的發表とさらに、暮しの手帖社で史料に實際に目を通し、調査することで、この會社が擔っていたさまざまな側面について知見を得た。

とりわけ、高度經濟成長期の商品テストやレシビ、編集長の花森安治の戦争體驗などについて、重要な知識を得ることができた。また、花森安治の家族や、編集部だった方の聞き取りをし、同時代の證言を班員のみならず暮しの手帖者社員と共有することができた。

二〇二三年 五月二五日 暮しの手帖社の資料紹介

発表者 難波達巳（暮しの手帖社）

発表者 會田綾子（暮しの手帖社）

二〇二三年 六月二二日 高度經濟成長期についてのレクチャー

発表者 小堀 聰

二〇二三年 七月一〇日 研究班の今後の運営について

発表者 藤原辰史

二〇二三年 九月三日 〇九〇五暮しの手帖社での調査

発表者 参加者全員

二〇二三年一〇月一六日 OBの河津一哉さん

の聞き取り

発表者 河津一哉（暮しの手帖社元社員）

二〇二三年一〇月一三日 『花森安治の従軍手帖』における短歌作品と昭和歌壇の戦中・戦後

発表者 菅原百合繪

二〇二三年一二月 四日 『暮しの手帖』と高度經濟成長期の生活技術

発表者 瀬戸口明久

二〇二四年 一月 五日 雪野まり「暮らしの手帖」における自立的ジャーナリズムの形成」を讀む

発表者 西川和樹（同志社大学）

個人研究

東方學研究部

川西走廊の漢藏諸語の記述研究

池田 巧

中國共產黨史の研究

石川 禎浩

イスラーム東漸史の研究

稲葉 穰

東アジア佛教美術史の研究

稲本泰生

佛教研究知識ベース——禪佛教を例として

WITTEN, Christian

中國注釋學史研究

古勝隆一

中央アジア東部の佛教文化

FORTE, Erika

インド・中國における佛教の學術と實踐

一〇〜一三世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究	船山 徹
秦漢制度史の研究	古松崇志
近代華南沿海の社會經濟制度の變容	宮宅 潔
高麗官僚制度研究	村上 衛
文字コード理論	矢木 毅
六朝隋唐佛教史の研究	安岡孝一
中國繪畫史の研究	倉本尙徳
中國中世近世の文學理論	吳 孟晉
中國イスラームの研究	永田知之
上古中國語音韻史の研究	中西龍也
東アジア傳統科學の研究	野原將揮
歴史考古學的方法にもとづく中國文化研究	平岡隆二
東方學における對象の論理學的研究	向井佑介
中國家具とその使用に關する研究	白須裕之
二〇世紀臺灣農業經濟の變容と自治・自律	高井たかね
中國古代中世の官制史	都留俊太郎
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究	藤井律之
近世以降日本における中國の戯曲と小説の受容	宮 紀子
人文情報學による日本古辭書の研究	楊 維公
人文學研究部	李 媛
近世社會解體過程の研究	岩城卓二
近代西洋音樂史	岡田曉生

戰前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷直人
イギリス・アイルランド近現代史	小關 隆
技術・自然・（ポスト）現代性の思想——哲學的探求	佐藤淳二
近代天皇制の文化史的研究	高木博志
近代日本美術と西洋	高階繪里加
精神分析的知の思想史的位置づけ	立木康介
《非人間》の歴史と記憶の存在論	直野章子
フランス象徵主義と文學的モデルニテ	森本淳生
西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身體性	石井美保
近代トランスコーカサス（特にグルジア）における匪賊	伊藤順二
近現代日本の社會史、思想史、技術史	KNAUDT, Tili
近現代日本の社會經濟と環境	小堀 聰
汚穢と非——秩序をめぐる日常現場の倫理	酒井朋子
アンシャン・レジーム期フランスにおける自己・感覺・眞理	菅原百合繪
東アジアにおける生命科學と「自然」	瀬戸口明久
近現代日本の社會運動・社會思想	福家崇洋
農業史の再構築	藤原辰史
共同的認識實踐の歴史	岡澤康浩
近代日本民俗誌システムの研究	菊地 曉
近代歌舞伎における懷古・改良意識および傳統	

劇化 金 智慧
近代フランス文學・藝術における「遊戲」・enの再検討 藤野志織

事業概況

- ・ Kyoto Lectures 2023
二〇二三年五月九日
於 フランス國立極東學院京都支部(EFEO)・イタリア國立東方學研究所 (ISEAS) (同時に Zoom で配信)
- The Stolen Robe: Copyright and its Metaphors in Medieval Japanese Poetry
講演者 : Pier Carlo Tommasi (ノッティ大学)
・ Kyoto Lectures 2023
二〇二三年五月三十一日
於 フランス國立極東學院京都支部 (EFEO)・イタリア國立東方學研究所 (ISEAS) (同時に Zoom で配信)
- Japonisme, a French Art Form
講演者 : Sophie Basch (ソルボンヌ大学)
・ 國際ワークショップ「Techniques of the Shichōshu: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects / 〈視聽者〉の系譜・ある文化的主體の科學技術的形成」
二〇二三年六月一七日、一八日
於 京都大學人文科學研究所本館・總合研究四號館講義室 (共通四)

六月一七日

高柳健次郎の「無線遠視法」研究：「遠視」とは何か？ 河西棟馬（東京工業大学）

注視せざるものたちの科学：視聴者のメディア論と人間工学の交錯 岡澤康浩

The “Quest for a ‘Seeing’ Machine”: Frogs, Judo, and the Origins of Deep CNNs

Hansun HSUNG（ダラム大学）

操作者の視覚：科学萬博とコンピュータ・グラフィックス 大久保遼（明治学院大学）

〈表面〉を見る吉田喜重：テレビ・ドキュメンタリー番組『美の美』シリーズについて

高部 遼（東京大学）

クリス・マルケル作品における観客の視聴行為の變遷について：受動的視聴から能動的體驗へ

小城大知（東京大学）

デジタル・マーケティング戦略における「觸覺的知覺」制御：メディア消費とアテンション・エコノミーの變貌

議長：河村 賢（大阪大学）
難波阿丹（聖徳大学）

基調講演 I：Continuity, Rupture, and the Ecological Collapse: Shichōsha and the Question of Time Alexander ZAHL TEN（ハーバード大学）

ディスカッサント：飯田 豊（立命館大学）

六月一八日

Observing the Observers: Opinion Polling and Televisual Temporality in the Twentieth Century Adam BRONSON（ダラム大学）

Orchestrated listening? Managing the Sonic Worlds of the Japanese Sound Hunter

Martyn SMYTH（シェフィールド大学）

視聴者集團としてのオタクとビデオ利用：アニメファンがテレビ文化を趣味にすることが可能となるプロセスに着目して 永田大輔（明星大学）

議長：大尾侑子（東京経済大学）

基調講演 II：国民生活時間調査と「視聴者」

喜多千草（京都大学）

ディスカッサント：Takuya TSUNODA（コロンビア大学）

・Kyoto Lectures 2023

二〇二三年六月二〇日（Zoomで開催）

Everyday uncertainties

講演者：Antonio Manieri（ナポリ東洋大学）

・第二回臺灣大学・京都大学人文科学研究所「近代化を考える」

二〇二三年六月三〇日

於 京都大学人文科学研究所分館 2F 大会議室

中國史における屬國制度とその終焉

甘 懷眞（臺灣大学歴史學科教授・日本研究センター執行委員）

中世文學及び思想の形成——漢籍との関わりの視座から曹 景惠（臺灣大学日本語文學科副教授・日本研究センター執行委員）

歌舞伎の御一新——脚本改良を手掛かりに 金 智慧

原發事故後の土地でものを育て、採り、食べ、住まうということ——福島縣富岡町・川内村にお

る人と生活環境—— 酒井朋子

・Kyoto Lectures 2023

二〇二三年七月一二日

於 フランス國立極東學院京都支部 (EFEO)

（同時にZoomで配信）

Katezome —— The Artistic Legacy of Serizawa Keisuke in Catalonia——

講演者：Ricard Bru（バルセロナ自治大学）

・人文研アカデミー二〇二三夏期公開講座「名作再讀一五——いま讀んだらこんなに面白い」

二〇二三年七月一五日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大会議室

（同時にZoomで配信）

インド哲學から再讀する『意識と本質』（井筒俊彦） 船山 徹

川蟹になったおもかさま——石牟禮道子『椿の海

の記』 酒井朋子

世界史を紡ぐ『危険な言語』——エスベラントの魅力を探る 都留俊太郎

・人文研アカデミー二〇二三シンポジウム「もう一つの〈キリシタン信徒発見〉——一八七九年茨木・千提寺とフランス人宣教師」

二〇二三年七月一七日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大会議室

（同時にZoomで配信）

パリ外國宣教會の「古キリシタン」探訪——マラン・プレシ神父の千提寺村發見を中心に——

マルタン・ノゲラ・ラモス

（フランス國立極東學院准教授）

禁教・潜伏・発見…キリシタンの三世紀（一六四一—一八二〇） 平岡隆二
聖地と呼ばれた千提寺——遺物からみるキリシタン発見、その後——

桑野 梓（茨木市立文化財資料館学芸員）
再考、一九二〇年、茨木キリシタン遺物の発見

・第三六回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セミナー
高木博志

二〇二三年七月二八日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室一
アイヌ語訳『五倫名義解』Universal Dependencies 並行コーパスへの挑戦

安岡孝一・安岡素子（京都大学）
言語モデルを用いた漢文の返り點付與と書き下し文生成 王昊・清水博文・河原大輔（早稲田大学）
大型漢籍テキスト・データベースにおける分類型検索のための一考察 Christian Witem
文字オントロロジーにおけるマークアップに関する試論 守岡知彦（国文学研究資料館）
国立国語研究所が所蔵する一九四八年読み書き能力調査の資料について

高田智和（国立国語研究所）
・人文研アカデミー二〇二三連続セミナー「讀んで旅して考える——文献研究とフィールドワーク」

二〇二三年九月二九日、一〇月一三日、一〇月二七日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室一

（同時に Zoom で配信）

九月二九日 葱嶺の彼方へ——玄奘三藏とイシク・クル湖・パミールの旅 稲葉 穰
一〇月二三日 イラン横断紀行——シャー・ルフの遠征と聖墓参詣の旅を辿って

杉山雅樹（京都外国語大学）
一〇月二〇日 ヒマラヤの地にメシア主義の痕跡をたどる——バルティスタン地方に居住するチベット系ムスリムたち

小倉智史（東京外国語大学）
一〇月二七日 地上の北辰、めぐる衆星——中国西北部のムスリム聖者墓とイスラーム神祕主義教団

・王寺賢太『消え去る立法者』公開合評會
二〇二三年一〇月二二日
於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室一
開會の言葉…森本淳生 中西龍也

コメンテーター…小泉義之（立命館大学）、佐藤淳二、森川輝一（京都大学）
・Kyoto Lectures 2023 應答…王寺賢太（東京大学）
二〇二三年一〇月三十一日

於 フランス国立極東學院京都支部（EFEO）
（同時に Zoom で配信）

The Urban Development of the City of Kaesong: From the Koryŏ Period to Twentieth-Century DPR Korea

講演者：Élisabeth Chabanol

（フランス国立極東學院ソウル支部）

・人文研アカデミー二〇二三レクチャー上映會「大正期の映畫と民衆宗教」

二〇二三年十一月五日

於 京都大学百周年時計臺記念館百周年記念ホール

日本における教育・宣傳映畫の歩みと宗教——無聲映畫の時代——

富田美香（国立映畫アーカイブ）
大正から昭和初期の金光教における映畫制作と上映活動 兒山陽子（金光圖書館）
司會…高木博志

無聲映畫上映會
『性は善』（一九二四年 監督…川口吉太郎二五分）
『豪傑兒雷也』（一九二一年 監督…牧野省三二分）

活辯士…夫婦（みょうと）
活辯士むっちゃん・かつちゃん 樂士…野原直子

・共同利用共同研究據點國際學術集會「中央アジアにおける文化財の保全と再生」
二〇二三年一一月一〇日
於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室一
（同時にオンラインで配信）

開會挨拶
岩井俊平（龍谷大学龍谷ミュージアム）

基調講演：One Century of DAF: Achievements and Perspectives
Henri-Paul FRANCFORT（フランス學士院）

報告Ⅰ：The Central Asian branch of ArScan
(Archaeology and Science of Antiquity, CNRS-
University Paris-Nanterre): Main Expeditions
and Current Research

Corinne DEBAINE-FRANCFORT
(フランス国立科学研究所センター)

報告Ⅱ：Gandhari Documents from South and
Central Asia: New Discoveries and Research

Stefan BAUMS (マッペン大学)
閉會挨拶 稲葉 穰

司會：慶昭蓉 (京都大学白眉センター)
・人文研アカデミー二〇二三公開講演會「中國學
術の源と流れ——章學誠を手がかりに」
二〇二三年一月一八日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室
(同時にZoomで配信)

源を追究する思想——章學誠の場合 古勝隆一
二〇世紀中國における「學術史」 竹元規人
學術の流別と章學誠の創見 内山直樹

・Kyoto Lectures 2023
二〇二三年一月二二日

於 フランス国立極東學院京都支部 (ELFEO)
(同時にZoomで配信)

“Hokusai”: The Name that Sold Books
講演者：Ellis Tinius (リーズ大学)

・人文研アカデミー二〇二三國際シンポジウム
「中國と日本の児童文學における家族」
二〇二三年一月二五日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室

(同時にZoomで配信)

私の目のなかの家族、愛、そして児童文學におけ
るそれらの運用について

秦 文君 (中國作家協會兒童委員會副主任、
上海作家協會副會長、

中日兒童文學美術交流協會會長)
日本児童文學と小學校國語教科書——「家族」の
描かれ方をてがかりに

成實朋子 (大阪教育大学教授)
コメンテーター：唐亞明 (北京《小活字》
社編集長)

コーディネーター：通譯：沈恬恬
(東京大学社會科学研究所/
日本學術振興會特別研究員PD)

司會：立木康介
・人文研アカデミー二〇二三研究セミナー「佛教
天文學と文化交流」
二〇二三年二月三日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室
(同時にZoomで配信)

「佛教天文學說の起源と變容」研究班について
小林博行 (中部大学人文學部教授)

六世紀の西域佛教石窟寺院の壁畫に見られる須彌
山圖像について

檜山智美 (國際佛教學大學院大學特任研究員)
圓通の曆學とその影響——應天曆を中心として

高橋あやの (大東文化大學東洋研究所准教授)
良識としての曆道——小嶋壽山『佛國曆象辯妄』

と陰陽道の視點

梅田千尋 (京都女子大學文學部教授)
平面天體儀「兩曜運旋略儀」と環中「須彌山儀」

梅林誠爾 (熊本縣立大學名譽教授)
司會：平岡隆二

・テレビジョン・アーカイブスを再想像する…科
學技術とメディア論から考える未來
二〇二三年二月四日

於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室
(同時にZoomで配信)

シヨーン・ハンスン (ダラム大学、
開會挨拶 岡澤康浩

アーカイブスの現状
村上聖一 (NHK放送文化研究所、
前島正裕 (國立科學博物館、

前川秀樹 (NHKアーカイブス、
山岸清之進 (NHKアーカイブス、
河西棟馬 (東京工業大學、

近藤和都 (大妻女子大學、
喜多千草 (京都大學、
閉會挨拶

・人文研アカデミー二〇二三研究セミナー「實驗
性の生態學…人新世における多種共生」
二〇二三年二月七日

於 京都大学人文科学研究所本館一階セミナー
室一

人新世を實驗する——多種共生のための豫備検討
モハーチ・ゲルゲイ (大阪大学人間科学研究科)

家畜化する害蟲——フィールドにおける實驗
瀬戸口明久

だれがいるの？大阪ベイエリアの埋立地で生物多様性を見守る
ルトウゼイ・エミリー
(大阪大学人間科学研究科)

・ **Kyoto Lectures 2023**
二〇二三年二月二日
於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO)
(同時にZoomで配信)
コメント：石井美保

Japan and the Journey of Soy: From Food from Somewhere to Washoku
講演者：Felice Farina
(ナポリ大学オリエンターレ)

・ 人文研アカデミー二〇二三シンポジウム「催眠とアンドロイド——ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの會話」
二〇二三年二月一六日
於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室
(同時にZoomで配信)

第一部 催眠と意識の謎
第二部 人間の営みを再現する機械
登壇者：福田裕大 (近畿大学国際学部准教授)、上尾眞道 (廣島市立大学国際学部准教授)、井上卓也 (日本學術振興會特別研究員ⅠPD)、宇佐美達郎 (京都大学非常勤講師)、中筋 朋 (京都大学人間・環境科学研究科准教授)

コメント：木元 豊
(武蔵大学人文学部教授)
司會：森本淳生
・ 特別講演會「Between Japan and China: the

Constitution of Henri Cernuschi's (1821-1896) Ancient Chinese Bronze Collection
二〇二三年二月二日
於 京都大学人文科学研究所本館一階セミナー室一

講演者：Olivier VENTURE
(École Pratique des Hautes Études 教授)
・ 第三七回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セミナー
二〇二四年一月一九日
於 国立国語研究所二F多目的室

『学文化字典』の異體字 安岡孝一
日本人の読み書き能力一九四八年調査のナゾ：IBMシステムの役割など
横山詔一、高田智和 (国立国語研究所)、前田忠彦 (統計数理研究所)、久野雅樹 (電気通信大学)、相澤正夫 (国立国語研究所)

国立国語研究所の漢字研究關係資料
高田智和、寺島宏貴、中島彩花
(国立国語研究所)

CHISE の IPFS 化における諸課題について
守岡知彦 (国文学研究資料館)
TEI Lex-O を利用した日本古辭書の構造化記述
李 媛

資料横断的な漢字音・漢語音データベースの課題と進捗——よりよい運用・連携を目指して——
加藤大鶴 (跡見学園女子大学)
・ Kyoto Lectures 2024

二〇二四年一月二二日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO)
(同時にZoomで配信)

Japanese Traditional Kites. From Regional Studies to the World of Arts
講演者：Cecile Lalry (ソルボンヌ大学、京都精華大学)

・ 日佛國際シンポジウム「La fiction épistolaire en France du XIXe au XXIe siècle」
二〇二四年一月二七日、二八日
於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室
(同時にZoomで配信)

一月二七日
OUVERTURE

Claude BERNARD (パリ・エコール・ノルマル大学)
Aurélia Steiner, une oeuvre interrogeant les modalités textuelles de Marguerite Duras
關未玲 (立教大学)

De la polyphonie à la monodie : Alexis ou le traité du vain combat (1929) de Marguerite Yourcenar, entre l'aveu et le rêve
村中由美子 (白百合女子大学)

Paul Valéry et le genre épistolaire —— autour de «Lettre d'un ami» et de «Lettre de Madame Émilie Teste»
森本淳生

L'épistolaire dans l'oeuvre de Rachilde
Jelena JOVICIC
(フリティッシュ・ユニバーシティ・ロンドン・ヒリア大学)
一月二八日

L'épistolaire dans la littérature d'anticipation, ou comment faire dialoguer les mondes ?

Claire BAREL-MOISAN
(フランス国立科学研究所センター)

Comment réconcilier la critique sociale et l'imagination scientifique? La pratique médiatique autour des Lettres de Malaisie de Paul Adam

合田陽祐 (山形大学)

Possibilité d'une confession épistolaire : Volupté de Sainte-Beuve

池田潤 (白百合女子大学)

Quartette verbal dans Jacques de George Sand

橋本知子 (千葉大学)

L'Abbé Aubain de Merimée : la fiction épistolaire ou la fabrique de l'illusion

Xavier BOURDENET (ランス第二大学)

L'émigration royaliste en toutes lettres

Claude BERNARD

CLÔTURE

森本淳生

・人文研アカデミー二〇二三シンポジウム「近現代天皇制を考える學術集會——「建國記念の日」に問う」

二〇二四年二月一日

於 京都大学人文科学研究所本館・総合研究四

號館共通第一講義室

昭和天皇の外遊 (一九二一年) をめぐるイメー

ジ・ポリティクス

紙屋牧子 (玉川大学)

慰撫と反覆——歌の〈私〉と天皇制

石井美保

「理念としての天皇」論

福家崇洋

天皇制と陵墓問題——世界遺産名稱「仁徳天皇陵

古墳」を問う

高木博志

司會：小堀聰

・人文研アカデミー二〇二三シンポジウム「氣候變動・災害多發時代に向き合う人文學——東アジア災害人文學の挑戦」

二〇二四年二月一七日

於 京都大学人文科学研究所本館一階セミナー

室一 (同時にZoomで配信)

司會・趣旨説明：山 泰幸

(関西学院大学災害復興制度研究所長) 語り交わし編み合う學融の場へ向けて——頻發災

難壓を飛翔する 岡田憲夫 (京都大学名誉教授、

関西学院大学災害復興制度研究所顧問)

氣候變動と天道策——災難をさける「理致」

趙寛子 (ソウル大学日本研究所教授)

氣候變動と風土變動

張政遠 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)

現場で活きる人文學の可能性——櫻島防災を事例として

大西正光 (京都大学大学院工学研究科教授)

中國災害考古學事始

向井佑介

コメント：多々納裕一

(京都大学防災研究所教授)

上原麻有子 (京都大学大学院文学研究科教授)

・Kyoto Lectures 2024

二〇二四年二月二日

於 フランス国立極東學院京都支部 (EFEO)

／イタリア国立東方學研究所 (DEAS) (同

時にZoomで配信)

Izumi Kyōka's Animistic Prose. When the Semantic becomes Mantic

Cody Poulton (カナダ・ヴィクトリア大学

名誉教授)

・第一九回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの挑戦 地球社會の調和ある共存に向けて」

二〇二四年三月二日

於 まつもと市民藝術館

開會挨拶 時任宣博 (京都大学理事・副學長)

森の空氣を吸って育ったスーパークー

今井啓雄 (ヒト行動進化研究センター教授

【副センター長】)

季節をはかる分子メカニズム——植物が季節を感じするしくみ——

工藤洋 (生態學研究センター教授)

量子コンピュータと素粒子の世界

伊藤悦子 (基礎物理學研究所准教授)

經濟學研究における京大式フィールドワーク

翟 亞雷 (東南アジア地域研究研究所准教授)

生きる力——染色體研究から教わったこと——

松本智裕 (生命科學研究科附屬

放射線生物研究センター教授)

パネルディスカッション「研究の未來、京大の未來」

パネリスト：湊長博 (京都大学總長)、時任宣博

司會：辻井敬亘 (京都大学研究連携基盤長)

・第一九回京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢

籍 SEMINAR 「清と濁の間——銘文と考古資料

【が語る曹操とその一族】

二〇二四年三月一日

於 學術総合センター内 一橋大學一橋講堂中

會議場

開會挨拶

岩城卓二

三世紀の牛車と騎馬——曹操から楊彪への書簡を
糸口として 岡村秀典（京都大學名譽教授・

公益財団法人黒川古文化研究所所長）

厚葬から薄葬へ——曹操とその一族の墓を掘る

向井佑介

石碑銘文からさぐる曹操一族の宮廷生活

森下章司（大手前大學國際日本學部教授）

司會…永田知之

・ブラフマニズムとヒンドウイズム——南アジア
の宗教と社會の連續性と非連續性 第一〇回シン
ポジウム『マハーバーラタ』研究の最前線——
傳承の形成と物語の展開——

二〇二四年三月二六日

於 京都大學人文科學研究所四階大會議室

導入解説 手嶋英貴（龍谷大學教授）

『マハーバーラタ』の口頭傳承的特徴について

高橋健二（東京大學大學院助教）

『マハーバーラタ』に描かれた王權儀禮の特徴

手嶋英貴

古代インド敘事詩の神器戰における記憶と呪句の

役割 川村悠人（廣島大學大學院准教授）

ヴィシシュヴァルーパー物語の傳承と變容

堂山英次郎（大阪大學大學院教授）

指定コメント

水野善文（東京外國語大學大學院教授）

・Kyoto Lectures 2024

二〇二四年三月二九日

於 フランス國立極東學院京都支部 (EFEO)

／イタリア國立東方學研究所 (ISEAS)

（同時にZoomで配信）

Edo Popular Literature and Female Readership

Mario Talamo（國際日本文化研究センター
外國人研究員）

所員動靜

招へい研究員

・張 珮琪 政治大學斯拉夫「スラブ」語文學系
專任【准教授】

類型論から見た西夏語文法の構造分析

（文化生成研究客員部門） 受入教員 池田教授

期間 二〇二三年四月一日～二〇二三年九月三〇
日

・陳 光興 國立陽明交通大學名譽教授

京都學派の遺産と新たな展開——豫備的研究

（文化連關研究客員部門） 受入教員 直野教授

期間 二〇二三年四月一日～二〇二三年九月三〇
日

・DISTEFANO, Anthony カリフォルニア州立

大學フラトン校公衆衛生研究科教授

米國と日本の多様なコミュニティにおける健康

の社會的決定要因に關する比較研究

（文化生成研究客員部門） 受入教員 立木教授

期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二三年一二
月三一日

三一日

・MORETTI, Constantino フランス極東學院准

教授

救世にかかわる敦煌出土佛教寫本の研究

（文化連關研究客員部門） 受入教員 稻葉教授

期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二三年一二
月三一日

三一日

・BICKERS, Robert プリストル大學教授

サバルタン移民と中國の條約港

（文化連關研究客員部門） 受入教員 村上教授

期間 二〇二四年一月一日～二〇二四年三月三
一日

日

・BERNARD, Claude ニューヨーク大學教授

一九世紀末フランスにおける書簡體形式の虚構

作品

（文化生成研究客員部門） 受入教員 森本教授

期間 二〇二四年一月五日～二〇二四年四月四
日

招へい外國人學者

・HUBBARD, James Bert スミス大學教授

中國・日本佛教文獻／佛教と腦科學に關する研

究

受入教員 Witten 教授

期間 二〇二一年一〇月一日～二〇二三年九月三
〇日

〇日

・張 利軍 東北師範大學歷史文化學院副教授

夏商周國家構造の考古學研究

受入教員 向井准教授

期間 二〇二二年六月一三日～二〇二三年四月二

六日

・高 婧聰 東北師範大學歷史文化學院副教授
西周時代の國家構造とその歴史的影響

受入教員 向井准教授

期間 二〇二二年六月一三日～二〇二三年四月二

六日

・李 皓 東北師範大學歷史文化學院副教授
辛亥革命期の中國東北邊境政局に對する日本の
對應

受入教員 石川教授

期間 二〇二二年一〇月二四日～二〇二三年一〇

月一四日

・楊 奎松 華東師範大學中國當代史研究セン
ター主任
一九四九年以前の毛澤東の前半生とその思想に
ついての考證

受入教員 石川教授

期間 二〇二三年一月一日～二〇二三年十二月三

一日

・KATA, Prachaiip カセサート大學講師
The living with deteriorated soil: The transfor-
mative ethics in troubled naturecultural worlds

受入教員 酒井准教授

期間 二〇二三年四月五日～二〇二三年四月二七

日

・劉 家幸 國立成功大學助理教授
南源性派と『鑑古錄』：佛教關連文體の類型に
注目して

期間 二〇二三年六月一五日～二〇二三年八月一

四日

・高 震實 中央研究院歷史語言研究所助研究員
日本での秦漢史研究の現状に關する考察及び研
究經驗の交換

受入教員 宮宅教授

期間 二〇二三年一〇月三一日～二〇二三年一一

月一三日

・孫 聞博 中國人民大學教授
秦の統一における軍事史の研究

受入教員 宮宅教授

期間 二〇二三年一月二六日～二〇二三年一二

月一三日

・廖 欽彬 中山大學教授
中日の近代哲學・思想の交差に關する研究

受入教員 福家准教授

期間 二〇二四年一月一日～二〇二四年十二月三

一日

・金 成奎 全北大學校教授
皇帝の死と儀禮——北宋七帝の喪葬儀禮・即位
儀禮・弔問外交

受入教員 古松教授

期間 二〇二四年一月二九日～二〇二四年二月一

九日

・王 家勳 山東交通學院准教授
日本の社會文化

受入教員 菊地助教

期間 二〇二四年二月二日～二〇二五年一月三一

日

外國人共同研究者

・趙 一水 高麗大學民族文化研究院訪問學者
近世朝鮮及び清朝の政治的言説における日本

受入教員 矢木教授

期間 二〇二二年四月六日～二〇二三年四月五日

・胡 頌 臺灣大學中國文學研究所博士候選人
南北朝時代における國家意識の構築とその表象
——外交使節・活動を中心に

受入教員 永田准教授

期間 二〇二二年四月二三日～二〇二三年四月二

一日

・楊 翊 ハーバード大學博士後期課程
敘述史學から分析史學へ…唐宋時代の史學の轉
換

受入教員 古松教授

期間 二〇二二年八月二日～二〇二三年八月二

〇日

・BROWNING, Jason インディアナ大學ブルー
ミントン校博士課程
Early Medieval Central Asian Buddhist
Philosophy as Reflected in Early Japanese and
Islamic Scholastic Traditions: Examining the
Transmission of the Doctrine of Momentariness

受入教員 中西准教授

期間 二〇二二年八月二三日～二〇二四年八月二

一日

・劉 素桂 蘭州大學外國語學院副教授
近代日本人による中國文化財調査

- 受入教員 向井准教授
期間 二〇二二年二月二日～二〇二三年一月三〇日
・郭 珮君
日本中世の佛教願文における神國と佛國
受入教員 倉本准教授
期間 二〇二三年二月一日～二〇二三年七月三十一日
・陳 詩蘭 江蘇省社會科學院歷史研究所助理研究員
東北アジアにおけるサンタン交易の盛衰
受入教員 古松教授
期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二四年九月三〇日
・Sabine Hinrichs ウィーン大學 PhD candidate
民國期中國の歴史學界における元朝とモンゴル帝國についての論述
受入教員 古松教授
期間 二〇二三年二月七日～二〇二四年二月一日
・VERDON, Noémie Claire ローザンヌ大學 Maître assistant
七―一世紀の中央アジア・南アジア史研究
受入教員 稲葉教授
期間 二〇二四年二月一日～二〇二四年四月一日
・HOMAYUN, Shamin Paul オーストラリア國立大學博士候補生
アフガニスタンと日本における文化記憶の共有
・バーミヤーン、シルクロード、玄奘
受入教員 稲葉教授
期間 二〇二四年三月一日～二〇二四年四月三〇日
・外國人研究生
・石垣章子
漢譯佛典として位置付けられた疑偽經典の成立と思想の系譜
受入教員 船山教授
期間 二〇一八年四月一日～二〇二五年三月三十一日
・Depaeron, Philippe
Representations of Memories of Traumatic Events in Contemporary Japan
受入教員 直野教授
期間 二〇二二年四月一日～二〇二四年三月三十一日
・莊 帆
京都における羅振玉の生活と思想
受入教員 石川教授
期間 二〇二二年四月一日～二〇二三年七月三〇日
・丁 麗瓊
感情史の視點から見る日中戦争時期の中國共產黨新聞宣傳史の研究（一九三一―一九四五）
受入教員 石川教授
期間 二〇二三年五月一日～二〇二三年四月三〇日
・Nathaniel Loydahl
唐と宋王朝の佛教受戒歴史
受入教員 船山教授
期間 二〇二二年六月一日～二〇二四年三月三十一日
・申 晴
清末以降の幣制改革
受入教員 村上教授
期間 二〇二二年九月一日～二〇二三年一〇月十五日
・黃 蓉
唐・宋・西夏時代における漢、チベットの藥師佛圖像とその信仰に關する研究
受入教員 稻本教授
期間 二〇二二年一〇月一日～二〇二三年九月三〇日
・姜 伊
漢唐時期における天象圖の變遷についての考古學的研究
受入教員 向井准教授
期間 二〇二二年一〇月一日～二〇二三年九月三〇日
・李 瀾
唐代の石刻造像銘と中國佛教實踐 (Stone Inscriptions and Chinese Buddhist Practices in the Tang Dynasty)
受入教員 倉本准教授
期間 二〇二三年一月一日～二〇二四年三月三十一日
・陸 家振

近代長江流域日本人商會の發展と變遷

受入教員 村上教授

期間 二〇二三年九月一三日～二〇二四年九月一

三日

・蔣 天穎

中國中古時期の墓における道教要素の研究

受入教員 向井准教授

期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二四年三月三

一日

・皮 艾琳

漢唐の墓葬圖像配置に関する研究

受入教員 向井准教授

期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二四年九月三

〇日

・王 依依

明清回儒思想と回民社會——葬儀文化の儒化を

中心に——

受入教員 中西准教授

期間 二〇二三年一〇月一日～二〇二四年九月三

〇日

・李 奧

中古華嚴經典文獻研究——敦煌を中心に

受入教員 永田准教授

期間 二〇二三年一月一日～二〇二五年一月三

一日

出版 物

紀 要

・人文學報 第一二二號（紀要第一九九冊）

二〇二三年六月二〇日刊

・東方學報 九八冊（紀要第二〇〇冊）

二〇二三年十二月二五日刊

・ZINBUN number 54

二〇二四年三月刊

研究報告その他

・東方學資料叢刊 第三〇冊

二〇二三年六月三〇日刊

・センター研究年報二〇二三

二〇二三年九月三〇日刊